

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	可
授業科目名	看護学概論	科目必修	可	単位互換	否
科目番号	N11001	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	齋藤基	そ の 他			
担当教員	齋藤基、巴山玉蓮、岩波浩美、清水裕子、木村美香、河内直美、看護技術学教員				
授業の概要	講義、参加観察実習、演習を通し、看護・人間・健康・環境という看護学の基本概念を学ぶことにより、抽象的な概念と具体的な現象の連関を理解する。また、看護職・看護学の歴史的発展などを学習し、学際的学問としての看護学の特徴及び看護職と看護学との関係を理解する。さらに、看護の目標・対象、看護職の役割と機能を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：看護学の成り立ちと特徴を学習することを通し、看護学の基盤となる知識を習得する。 目標：1. 看護職・看護学の歴史的発展を学習することにより、看護学の基本概念である看護、人間、健康、環境について理解する。 2. 看護の機能・目標・対象、看護職の役割を理解する。 3. 看護学及びその実践の基礎となる理論の学習を通し、看護学の特徴を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	授業の目的・目標及び学習方法の理解 －本学のカリキュラムにおける看護学概論の位置づけ －大学で学ぶということ	講義 演習	『大学で勉強する方法』『なせば成る』を精読する	齋藤 岩波
	2	大学での学び方 －スタディスキル	演習	自己の学習方法の課題を明確にする	岩波
	3	I. 看護学の基本概念	講義	看護学の基本概念を復習する	岩波
	4	II. 看護の起源と機能分化による看護職の誕生 －太古の昔からある看護の機能 －看護の機能分化による看護職の誕生		ナイチンゲールの業績を2つ以上、文献を用いて調べる	岩波
	5	III. 看護職の確立と発展 －近代における看護職の確立 －現代における看護職の発展		ナイチンゲールの「看護の概念」とヘンダーソンの「看護の定義」を精読する	清水
	6	IV. 看護の機能と看護職の役割(1) －看護の機能 －看護職の役割		用語「概念」「現象」を辞書を用いて調べる	巴山
	7	参加観察実習オリエンテーション		実習目標を確認する	岩波 清水
	8 9	参加観察実習：看護学の基本概念に関連した現象を含む相互行為場面を参加観察する	実習	観察した現象を看護学の基本概念と関連づけて記述する	グル ープ 担当 教員
	10 11	演習：参加観察した結果を統合し、概念間の関連を理解する	演習	看護の対象を2つ以上列挙する	
	12	IV. 看護の機能と看護職の役割(2) －看護の対象 －看護職が役割を果たす多様な場	講義	『看護の基本となるもの』33ページから78ページを精読する	巴山
	13	V. 看護学の特徴(1) －看護理論とは －ヘンダーソン看護論 －キング看護理論		用語「看護学」を辞書を用いて調べる	岩波 河内
	14	V. 看護学の特徴(2) －看護学とは －アメリカ合衆国における看護学の発展 －日本における看護学の発展		用語「看護過程」を辞書を用いて調べる	岩波 河内
	15	V. 看護学の特徴(3) －問題解決的アプローチとしての看護過程 －看護学概論総括		第1回から第15回の授業内容を復習する	河内 齋藤
	評価方法	参加観察実習・演習(40%)，課題レポート(60%)			
教科書	手島恵監修 看護者の基本的責務 2016年版一定義・概念／基本法／倫理，日本看護協会出版会，2016. ヴァージニア・ヘンダーソン著；湯楨ます他訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2014. A. W. コーンハウザー著；山口栄一訳：大学で勉強する方法，玉川大学出版会，2014. 山形大学基盤教育院編：スタートアップセミナー学修マニュアルなせば成る！改訂版，山形大学出版会，2014.				
参考文献等	ジョセフィンA. ドラン著；小野泰博他訳：看護・医療の歴史，誠信書房，1978. フローレンス・ナイチンゲール著；薄井担子他訳：看護覚え書 改訂第7版，現代社，2011. アイモジン・M. キング著；杉森みど里訳：キング看護理論，医学書院，1985.				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	可
授業科目名	看護技術学概論	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N11002	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次 後期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他			
担当教員	肥後すみ子, 佐藤正樹, 山下暢子, 土井一浩, 田淵祥恵, 大川美千代, 高橋さつき, 服部美香, 高橋美穂子, 機能看護学教員				
授業の概要	技術という概念及び看護職の実践を支える看護技術の特徴とは何かを学習する。また、実際の看護技術提供場面を参加観察する実習を通し、様々な看護技術の特徴とそれらが複合される実際を学習する。さらに、看護技術と看護過程・看護理論の関係を学習し、看護技術の修得が、より効果的な看護を展開するためにいかに重要かを理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：看護技術の特徴とそれを支える要素を学習し、看護技術を修得する意義を理解する。 目標：1. 看護技術の定義を理解する。 2. 看護技術の構成要素を理解する。 3. 看護実践に共通する基本技術を理解する。 4. 看護技術の今日的課題を理解する。				
授 業 の 内 容 と 方 法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	技術とは、看護技術の定義	講義	配布資料に沿って学習する。看護技術学の定義を復習する。	肥後
	2	参加観察実習オリエンテーション	実習	実習・演習後に評価表とレポート提出する	肥後
	3・4	参加観察実習			肥後, 佐藤, 山下, 土井, 田淵, 大川, 高橋さ, 服部, 機能看護学教員1名
	5	参加観察実習後のまとめ	演習		肥後
	6	看護技術学の定義と構成要素	講義		肥後
	7	感染予防①	講義		佐藤
	8	感染予防②	演習		佐藤, 肥後, 山下, 高橋さ, 服部
	9	ボディメカニクス①	講義	・関連する「人体の構造と機能」を事前学習しておく。	佐藤
	10・11	ボディメカニクス②	演習		佐藤, 肥後, 山下, 高橋さ, 服部
	12	看護技術と安全	講義	・演習後にレポート提出する	佐藤
	13・14	看護技術学の課題と展望① グループワーク	講義 演習		肥後
	15	看護技術学の課題と展望②	講義		肥後
評 価 方 法	試験 50%, 演習レポート 10%, 参加観察実習 30%, 出席 10%				
教 科 書	①深井喜代子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ, メヂカルフレンド社, 2014. ②深井喜代子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ, メヂカルフレンド社, 2014.				
参 考 書 参 考 文 献 等	別途提示				
備 考	本科目は、看護技術学（各論Ⅰ～Ⅵ）に共通する技術である。そのことを意識して確実な知識、技術を学習してください。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	否
授業科目名	看護技術学各論Ⅰ（アセスメント技術）		科目履修	否	単位互換
科目番号	N11003	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 前期 Semester		単 位	2単位 60時間	
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他			
担当教員	肥後すみ子, 佐藤正樹, 土井一浩, 山下暢子, 保坂さえ子, 高橋さつき, 田淵祥恵, 大川美千代, 服部美香, 高橋美穂子, 機能看護学教員				
授業の概要	この授業においては、呼吸、循環、排泄、運動機能などの観察に必要な技術及びこれを活用したフィジカルアセスメントの実際を講義、演習を通して学習する。また、心理的側面の観察と査定、社会的側面の観察と査定について学習するとともに、実際のアセスメント技術提供場面を参加観察する実習を通し、看護実践に必要な多様なアセスメント技術とそれらにより獲得した情報を統合する意義を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：対象の健康状態を把握するための基礎的な知識・技術を理解する。 目標：1. アセスメント技術の原理原則を理解する。 2. アセスメント技術を原理原則に基づいて実施し、技術を習得する。 3. アセスメント技術の実際を理解する。 4. 対象の持つ問題を理解するためにアセスメント技術を習得する意義を理解する。 5. 健康回復・維持促進および生活支援のための包括的アセスメントの基礎的な知識を理解する。				
授業の内容と 方法	回	授業内容	授業 形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	学科目ガイダンス：アセスメント技術 観察の技術と情報収集の実際	講義	・教科書①②を持参 すること	肥後
	2	環境と安全に関するアセスメント	講義	・関連する「人体の 構造と機能」を事 前学習する。 ・演習後はレポート を提出する。 ・講義と演習には教 科書を持参する。	佐藤
	3	測定の技術と情報収集の実際①（身体計測）	講義		土井
	4・5	測定の技術と情報収集の実際②（バイタルサイン）	講義		土井
	6・7	測定の技術と情報収集の実際③（バイタルサイン）	演習		土井, 保坂, 高橋さ, 大川, 佐藤, 高橋美
	8	呼吸機能のアセスメント①	講義		佐藤
	9	呼吸機能のアセスメント②	演習		佐藤, 肥後, 高橋さ, 田淵, 服部, 高橋美
	10	循環機能のアセスメント①	講義		肥後
	11	循環機能のアセスメント②	演習		肥後, 佐藤, 高橋さ, 田淵, 服部, 高橋美
	12	運動機能のアセスメント①	講義		佐藤
	13	運動機能のアセスメント②	演習		佐藤, 肥後, 高橋さ, 田淵
	14	知覚機能のアセスメント①	講義		肥後
	15	知覚機能のアセスメント②	演習		肥後, 佐藤, 高橋さ, 田淵, 服部, 高橋美
	16	外皮・免疫機能のアセスメント	講義		肥後
	17	消化吸収機能のアセスメント①	講義		肥後
	18	消化吸収機能のアセスメント②	演習		肥後, 佐藤, 高橋さ, 田淵, 服部, 高橋美
	19	参加観察実習オリエンテーション	実習		肥後
	20・21	参加観察実習			肥後, 山下, 保坂, 土井, 高橋さ, 田淵, 大川, 服 部, 佐藤, 機能看護学教員
	22・23	検体採取の技術と情報収集①②	講義		土井
24・25	採血の技術③	演習	土井, 保坂, 高橋さ, 田 淵, 大川, 服部, 佐藤, 高橋美		
26, 27	臨床実技：問診①	講義	シナリオ紹介, 演習オリエンテー ション		肥後
28・29	臨床実技：問診②	演習	演習終了後、レポ ートを提出する	肥後, 佐藤, 山下, 高橋さ, 服部, 高橋美	
30	実技チェック	演習	技術の練習	肥後, 山下, 保坂, 土井, 高橋さ, 田淵, 大川, 服部, 佐藤, 高橋美	
評 価 方 法	筆記試験 60%, 実技試験 15%, 参加観察実習 20%, 演習レポート 5% ※技術チェック日時は別途指定する。				
教 科 書	①小野田千枝子監修：実践！フィジカルアセスメント，金原出版，2004。 ②深井喜代子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ，メジカルフレンド社，2014。 ③深井喜代子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ，メジカルフレンド社，2014。				
参 考 書 参 考 文 献 等	①山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック第2版，医学書院，2011。 ②その他，授業で提示する。				
備 考	本科目は看護技術学各論Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，Ⅵに関連する内容である。そのため以後に学習する看護技術学に活かせるようにしてください。この科目は身体の機能が深く関連します。「人体の構造と機能」を復習して授業へ参加してください。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	否		
授業科目名	看護技術学各論Ⅱ（生活行動支援技術・生活機能維持促進技術）		科目履修	否	単位互換		
科目番号	N11004	クラス番号	N1				
授業形式	演習						
開講時期	2年次 前期セメスター		単	位	2単位 60時間		
科目責任者	保坂さえ子		その他				
担当教員	保坂さえ子, 大川美千代, 肥後すみ子, 山下暢子, 田渕祥恵, 高橋さつき, 土井一浩, 服部美香, 佐藤正樹, 高橋美穂子, 機能看護学教員						
授業の概要	生活環境を整え、対象の持つ自然治癒力を高めるための技術、身体の清潔を保つための技術、食事を摂取し、栄養状態を保つための技術、排泄に関する技術等、対象の日常生活行動における不足部分を補う技術に関して、その技術を支える理論的知識と方法的知識を学習する。また、運動・知覚・循環・呼吸・排泄などの日常生活に必要な様々な機能を維持・促進するための技術に関して、その技術を支える理論的知識と方法的知識を学習する。さらに、これらの原則を学習する意義を理解するため、実際の生活行動支援技術・生活機能維持促進技術の提供場面に参加観察する実習を行う。						
学科目的 学科目標	目的：対象の安全・安楽な生活の支援に必要な基礎的看護技術とその技術を支える理論的知識と方法的知識を理解する。 目標：1.生活行動支援技術・生活機能維持促進技術の原理原則を理解する。 2.生活行動支援技術・生活機能維持促進技術を原理原則に基づいて実施し、技術を習得する。 3.生活行動支援技術・生活機能維持促進技術が提供される実際を理解する。 4.対象の安全・安楽な生活を支援するために生活行動支援技術・生活機能維持促進技術を習得する意義を理解する。						
授業の内容と 方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当		
	1	学科目ガイダンス	講義	学習課題はガイダンス時に説明する。	保坂		
	2	住生活を支援する技術①	講義		大川		
	3・4	住生活を支援する技術②(ベッドメイキング)	演習		大川, 保坂, 高橋さ, 佐藤, 高橋美		
	5	住生活を支援する技術③(シーツ交換)	演習		大川, 保坂, 高橋さ, 高橋美		
	6	食行動を支援する技術①	講義		大川		
	7	食行動を支援する技術②(食事介助)	演習		大川, 保坂, 高橋さ, 佐藤, 高橋美		
	8	排泄行動を支援する技術①	講義		大川		
	9	排泄行動を支援する技術②(床上排泄)	演習		大川, 保坂, 高橋さ, 佐藤, 高橋美		
	10	衣生活を支援する技術①	講義		大川		
	11	清潔行動を支援する技術①(総論)	講義		保坂		
	12	衣生活を支援する技術②(寝衣の交換)	演習		大川, 保坂, 佐藤, 高橋美		
	13	清潔行動を支援する技術②(各論) (全身清拭, 足浴, 口腔ケア)	講義		保坂		
	14	清潔行動を支援する技術③(各論) (洗髪, 陰部洗浄), 清潔行動の基本	講義 演習		保坂, 大川, 高橋さ, 高橋美		
	15	参加観察実習オリエンテーション	講義		保坂		
	16・17	清潔行動を支援する技術④(全身清拭)	演習*		保坂, 大川, 高橋さ, 田渕, 佐藤, 高橋美		
	18・19	参加観察実習	実習*		保坂, 大川, 肥後, 山下, 田渕, 高橋さ, 土井, 服部, 佐藤, 機能看護学教員		
	20	清潔行動を支援する技術⑤(足浴)	演習*		保坂, 大川, 高橋さ, 田渕, 佐藤, 高橋美		
	21	清潔行動を支援する技術⑥(陰部洗浄)	演習*		大川, 保坂, 高橋さ, 佐藤, 高橋美		
	22・23	清潔行動を支援する技術⑦(洗髪)	演習*		保坂, 大川, 高橋さ, 田渕, 佐藤, 高橋美		
	24	清潔行動を支援する技術⑧(口腔ケア)	演習		大川, 保坂, 高橋さ, 佐藤, 高橋美		
	25	動くを支援する技術①	講義		保坂		
	26	休むを支援する技術①(休息と睡眠)	講義		保坂		
	27	動くを支援する技術② (歩行, 車いす, ストレッチャー)	演習		保坂, 大川, 高橋さ, 田渕, 佐藤, 高橋美		
	28	休むを支援する技術②(自然治癒力を高める)	講義		保坂		
	29	休むを支援する技術③(リラクゼーション法)	演習		保坂, 大川, 高橋美		
	30	実技チェック	演習		保坂, 大川, 肥後, 山下, 田渕, 高橋さ, 土井, 服部, 佐藤, 高橋美		
	評価方法	筆記試験 50%, 実技チェック 15%, 参加観察実習 20%, 課題レポート提出 15%, 試験日時は別途指定する。					
	教科書	①深井喜代子, 前田ひとみ編集：基礎看護学テキスト改定第2版 EBN 志向の看護実践, 南江堂, 2015					
	参考書 参考文献等	①深井喜代子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ第4版, メヂカルフレンド社, 2015 ②深井喜代子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ第3版, メヂカルフレンド社, 2015 ③阿曾洋子, 井上智子, 氏家幸子：基礎看護技術第7版, 医学書院, 2011					
備考	本科目は「人体の構造と機能(解剖学, 生理学)」の知識を必要とするため、事前学習を十分行って授業に臨んで下さい。看護技術学概論、看護技術学各論Ⅰを復習しておいて下さい。*印は2クラスに分けて演習します。						

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	否	
授業科目名	看護技術学各論Ⅲ (治療過程支援技術、症状緩和技術)		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N11005	クラス番号	N1			
授業形式	演習		必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期セメスター					
科目責任者	保坂さえ子		その他	2単位 60時間		
担当教員	保坂さえ子, 田淵祥恵, 肥後すみ子, 山下暢子, 高橋さつき, 大川美千代, 土井一浩, 服部美香, 佐藤正樹, 高橋美穂子, 機能看護学教員					
授業の概要	看護職者は、対象の持つさまざまな健康上の問題をより効果的に解決・回避するために本来ならば医師が行う治療上必要な行動を代行し、手術や検査などの治療を対象が円滑に受けられるようにする。また、対象の安楽を阻害する疼痛、発熱、呼吸困難、排泄障害、見当識障害などさまざまな症状を緩和するための技術を駆使し、常に対象の安全安楽に配慮する。この授業においては、これらの技術の実際とこれを支える理論的知識と方法論的知識を学習する。さらに、これらの提供される目的を理解するため、実際の治療過程支援技術・症状緩和技術の提供場面に参加観察する実習を行う。					
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：対象の円滑な治療受け入れの支援に必要な基礎的看護技術とその技術を支える方法論的知識と理論的知識を学習する。 目標：1. 治療過程支援技術、症状緩和技術の原理を理解する。 2. 治療過程支援技術を原理に基づき実施する。 3. 症状緩和技術を原理に基づき実施する。 4. 治療過程支援技術、症状緩和技術が提供される実際を理解する。 5. 1から4を通して、対象の持つさまざまな健康上の問題を効果的に解決・回避するために、治療過程支援技術、症状緩和技術を習得する意義を見いだす。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当	
	1	学科目ガイダンス	講義		保坂	
	2	治療過程を支援する技術①(無菌操作、滅菌手袋)	演習	1年次の復習	田淵, 保坂, 大川, 高橋美	
	3	実技チェック	演習		保坂, 田淵, 大川, 服部, 佐藤, 高橋美	
	4	治療過程を支援する技術②(易感染性)	講義		田淵	
	5	薬物療法の過程を支援する技術①	講義		保坂	
	6	薬物療法の過程を支援する技術②	講義		保坂	
	7	薬物療法の過程を支援する技術③(筋肉内注射)	演習*		保坂, 田淵, 服部, 高橋美	
	8	参加観察実習オリエンテーション	講義		保坂	
	9	薬物療法の過程を支援する技術④(点滴静脈内注射)	演習		保坂, 田淵, 服部, 高橋美	
	10	栄養療法の過程を支援する技術①	講義		保坂	
	11・12	参加観察実習	実習*		保坂, 肥後, 山下, 田淵, 大川, 高橋さ, 土井, 服部, 佐藤, 機能看護学教員	
	13	栄養療法の過程を支援する技術②(胃管チューブ挿入、経鼻経管栄養法)	演習		保坂, 田淵, 大川, 高橋美	
	14	呼吸困難の過程を支援する技術①	講義		田淵	
	15	呼吸困難の過程を支援する技術②	講義		田淵	
	16	呼吸困難の過程を支援する技術③(吸引)	演習*		田淵, 保坂, 佐藤, 高橋美	
	17	呼吸困難の過程を支援する技術④(酸素吸入)	演習	学習課題はガイダンス時に説明する。	田淵, 保坂, 佐藤, 高橋美	
	18	循環障害の過程を支援する技術①	講義		田淵	
	19	循環障害の過程を支援する技術②(電法)	演習		田淵, 保坂, 佐藤, 高橋美	
	20	救命治療の過程を支援する技術①	講義		保坂	
	21	救命治療の過程を支援する技術②(BLS)(包帯法)	演習*		保坂, 田淵, 佐藤, 高橋美	
	22	排泄機能の症状を緩和する技術①	講義		田淵	
	23	排泄機能の症状を緩和する技術②	講義		田淵	
	24	症状緩和の技術演習①(発熱・疼痛・出血傾向・意識障害)	演習		保坂, 田淵, 山下, 高橋美	
	25	排泄機能の症状を緩和する技術③(導尿)	演習*		田淵, 保坂, 佐藤, 高橋美	
	26	排泄機能の症状を緩和する技術④(洗腸)	演習		田淵, 保坂, 佐藤, 高橋美	
	27	症状緩和の技術演習②(発熱・疼痛・出血傾向・意識障害)	演習		保坂, 田淵, 山下, 高橋美	
	28	症状緩和の技術演習③(発熱・疼痛・出血傾向・意識障害)	演習		保坂, 田淵, 山下, 高橋美	
	29	症状緩和の技術演習④(発熱・疼痛・出血傾向・意識障害)	演習		保坂, 田淵, 山下, 高橋美	
	30	症状緩和の技術演習⑤/統合(まとめ)	演習・講義		保坂, 田淵, 山下, 高橋美	
評価方法	筆記試験 50%、実技チェック 10%、参加観察実習 20%、症状緩和技術演習 10%、課題レポート 10% 試験日時は別途指定する。					
教科書	①深井喜代子, 前田ひとみ編集：基礎看護学テキスト改定第2版 EBN 志向の看護実践, 南江堂, 2015					
参考文献等	①深井喜代子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ第4版, メヂカルフレンド社, 2015 ②深井喜代子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ第3版, メヂカルフレンド社, 2015 ③阿曾洋子, 井上智子, 氏家幸子：基礎看護技術第7版, 医学書院, 2011					
備考	本科目は「人体の構造と機能(解剖学, 生理学)」の知識を必要とするため、事前学習を十分行って授業に臨んで下さい。看護技術学概論、看護技術学各論Ⅰ・Ⅱを復習しておいて下さい。*印は2クラスに分けて演習します。					

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	否
授業科目名	看護技術学各論Ⅳ（心理的支援技術・教育的支援技術）		科目履修	否	単位互換
科目番号	N11006	クラス番号	N1		
授業形式	演習		必修選択区分	必修	
開講時期	2年次 前期 semester		単 位	2単位 60時間	
科目責任者	山下暢子	そ の 他			
担当教員	山下暢子、高橋さつき、服部美香、肥後すみ子、保坂さえ子、大川美千代、土井一浩、田淵祥恵、佐藤正樹、高橋美穂子、機能看護学教員				
授業の概要	看護職者は、対象が自ら問題を克服するために必要な心理的・教育的支援を行っている。この授業においては、これらの支援に必要な基礎的技術とこれを支える理論的知識と方法論的知識を学習する。また、その過程を通して対象自らが主体的に自己の健康上の問題を克服できるように支援する意義を理解する。さらに、これらを学習する意義を理解するため、実際の心理的支援技術の提供場面に参加観察する実習を行う。				
学 科 目 的 標	目的：対象が自ら問題を克服するために必要な心理・教育的支援のための看護技術とその技術を支える理論的知識と方法論的知識を学習する。 目標： <ol style="list-style-type: none"> 1. クライエントに心理的な支援を行うために活用できる技術を学術的な原理原則に基づいて実施する。 2. クライエントに教育的な支援を行うために必要な技術を原理原則に基づいて実施する。 3. 看護実践において心理的支援技術と教育的支援技術を活用する過程を理解する。 4. 1. から 3. を通して、対象自らが主体的に自己の健康上の問題を克服できるように支援するために心理的支援技術と教育的支援技術を習得する意義を見出す。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	学科目ガイダンス	講 義		山 下
	2	心理的支援技術 ①（コミュニケーション技法①）	講 義	演習後、ワークシートを提出する。	高橋さ
			演 習		高橋さ、高橋美
	3	心理的支援技術 ②（コミュニケーション技法②）	講 義	演習後、ワークシートを提出する。	高橋さ
			演 習		高橋さ、高橋美
	4, 5	心理的支援技術 ③④（健康行動理論）	講 義	演習後、ワークシートを提出する。	高橋さ
			演 習		高橋さ、高橋美
	6, 7	心理的支援技術 ⑤⑥（認知行動療法）	講 義	演習後、ワークシートを提出する。	高橋さ
			演 習		高橋さ、高橋美
	8	参加観察実習オリエンテーション	講 義	実習前、実習要項を復習する。	山 下
	9	教育的支援技術の基礎知識 ①	講 義	提示される課題に取り組み演習に臨む。	服 部
			講 義		服 部
	10, 11	教育的支援技術 ②③ (教育内容、目的・目標の検討)	講 義	提示される課題に取り組み演習に臨む。	服部、山下、高橋さ、大川、田淵、佐藤、高橋美
			演 習		
	12, 13	参加観察実習	実 習	実習後、課題レポートを提出する。	山下、高橋さ、服部、肥後、保坂、大川、土井、田淵、佐藤、機能看護学教員
	14, 15	教育的支援技術 ④⑤ (教材の検討と作成、授業計画案の立案)	講 義	提示される課題に取り組み演習に臨む。 全演習終了後、個人レポート、グループレポートを提出する。	服 部
			演 習		服部、山下、高橋さ、大川、田淵、佐藤、高橋美
	16, 17	教育的支援技術 ⑥⑦ (授業評価の方法検討)	講 義	提示される課題に取り組み演習に臨む。 全演習終了後、個人レポート、グループレポートを提出する。	服 部
			演 習		服部、山下、高橋さ、大川、田淵、佐藤、高橋美
18, 19	教育的支援技術 ⑧⑨ (模擬授業の実施)	講 義	提示される課題に取り組み演習に臨む。 全演習終了後、個人レポート、グループレポートを提出する。	服 部	
		演 習		服部、山下、高橋さ、大川、田淵、佐藤、高橋美	
20, 21	教育的支援技術 ⑩⑪ (授業の評価)	講 義	提示される課題に取り組み演習に臨む。 全演習終了後、個人レポート、グループレポートを提出する。	服 部	
		演 習		服部、山下、高橋さ、大川、田淵、佐藤、高橋美	
22, 23	教育的支援技術 ⑫⑬ (ティーチングとコーチング)	講 義	演習後、ワークシートを提出する。	高橋さ	
		演 習		高橋さ、高橋美	
24	心理的支援技術・教育的支援技術の統合 ①	講 義	演習後、課題レポートを提出する。	山 下	
25 - 29	心理的支援技術・教育的支援技術の統合 ②～⑥	演 習		山下、高橋さ、服部、佐藤、高橋美	
30	心理的支援技術・教育的支援技術の統合 まとめ	演 習		山下、高橋さ、服部、佐藤、高橋美	
		講 義	山 下		
評 価 方 法	心理的支援技術 30%、教育的支援技術 30%、心理的・教育的支援技術の統合 20%、参加観察実習 20%				
教 科 書	特になし				
参 考 書 参 考 文 献 等	松本千明：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に，医歯薬出版株式会社，2002。 舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて，医学書院，2013。 諏訪茂樹：対人援助のためのコーチング 利用者の自己決定とやる気をサポート，中央法規出版株式会社，2007。				
備 考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	否	
授業科目名	看護技術学各論Ⅴ（看護過程と看護理論）		科目履修	否	単位互換	
科目番号	N11007	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 後期セメスター	単 位	2単位 60時間			
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他				
担当教員	肥後すみ子、高橋さつき、山下暢子、保坂さえ子、大川美千代、土井一浩、田淵祥恵、服部美香、佐藤正樹、機能看護学教員					
授業の概要	看護技術学各論において学習してきたさまざまな技術は、対象の個別性にあわせて正確に適用することによりはじめて、健康上の問題解決・回避あるいは健康状態の増進に結びつく。これらの技術提供を支える方法論が看護過程であり、看護職者は看護過程の展開を通して、対象の潜在的・顕在的な健康上の問題の解決と問題の回避、健康増進を目指す。また、方法論である看護過程は、看護理論に基づき展開する必要がある。この授業においては、看護過程展開のために必要な知識・技術・態度及び看護技術と看護過程・看護理論の関係を学習し、その具体的方法を統合的に理解する。さらに、個別的な看護実践の展開に向けて看護理論を活用する意義を理解するため、対象と看護師による実際の相互行為場面を参加観察し、理論を用いて説明する実習を行う。					
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：科学的根拠に基づく看護を対象の個別性に応じて実践する方法を理解する。 目標： 1. 理論の成り立ち、看護理論の特徴と機能について理解する。 2. 看護過程の各段階と機能を明らかにする。 3. 看護技術と看護過程・看護理論の関係を学習し、看護過程の展開方法を理解する。 4. 1. から3. をとおして、看護実践における看護理論・看護過程の重要性を見いだす。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	学科目ガイダンス	講 義		肥 後	
	2	看護理論概説	講 義		肥 後	
	3	ナイチンゲール「看護覚え書き」	講 義	「看護覚え書き」 読書後、課題レポ ートを夏季休業明 け提出。	肥 後	
	4, 5	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」	講 義		高橋さ	
	6	キング「キング看護理論」	講 義		高橋さ	
	7, 8	看護理論 グループ演習	演 習	事前：各自で理論 家の書籍を精読 事後：グループ毎 に演習成果を資料 にまとめて提出	肥後、高橋さ、大川、 佐藤、高橋美	
	9, 10	看護理論 グループ演習成果発表会	演 習	発表会后、課題レ ポートを提出		
	11	参加観察実習オリエンテーション	講 義	実習前に実習要項 を復習	肥 後	
	12, 13	参加観察実習	実 習	実習後、課題レポ ートを提出	肥後、高橋さ、山下、 保坂、大川、土井、田 淵、服部、佐藤、機能 看護学教員	
	14	看護過程概説	講 義		肥 後	
	15	看護過程（アセスメント）	講 義		肥 後	
	16	看護過程（問題の明確化）	講 義		肥 後	
	17	看護過程（計画）	講 義		肥 後	
	18	看護過程（実施、評価）	講 義		肥 後	
	19	看護過程演習①（事例展開：アセスメント）	演 習	事前：各自で事例 展開を書式に記載 事後：グループ毎 に演習成果を資料 にまとめて提出	肥後、高橋さ、山下、 大川、服部、高橋美	
	20, 21	看護過程演習②, ③（事例展開：アセスメント）				
	22, 23	看護過程演習④, ⑤（事例展開：問題の明確化）				
	24, 25	看護過程 アセスメント、問題の明確化発表会	演 習	授業最終日に各自 が記載した事例展 開を提出		
	26	看護過程演習⑥（事例展開：立案）	演 習	事前：各自で事例 展開を書式に記載 事後：グループ毎 に演習成果を資料 にまとめて提出		
27, 28	看護過程演習⑦, ⑧（事例展開：立案）					
29, 30	看護過程 立案発表会	演 習				各自が記載した事 例展開を提出
評価方法	演習70%【内訳 看護理論演習25%、看護過程演習45%】、出席状況10%、参加観察実習20%					
教科書	フローレンス・ナイチンゲール著：湯植ます他訳：看護覚え書き 改訂第7版、現代社、2011。 ヴァージニア・ヘンダーソン著：湯植ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、2013。 江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第4版、ヌーヴェルヒロカワ、2013。 マージョリ・ゴードン著、看護アセスメント研究会著：ゴードンの看護診断マニュアル 原書第11版、医学書院、2010。					
参考書 参考文献等	アイモジン・キング著：杉森みど里訳：キング看護理論、医学書院、1985。 T. ヘザー・ハードマン編、上鶴重美編：NANDA-I看護診断 定義と分類 2015-2017 原書第10版、医学書院、2015。					
備 考	フローレンス・ナイチンゲール著：湯植ます他訳「看護覚え書き」は、前期に図書購入して課題に備える。					

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	否
授業科目名	看護技術学各論VI (実習)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N11008	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期semester	単 位	2単位 90時間		
科目責任者	山下暢子	そ の 他			
担当教員	山下、肥後、保坂、大川、土井、高橋さ、田渕、服部、河内、木村、佐藤				
授業の概要	病院に入院し生活している 1 名の対象を受け持ちアセスメントから看護目標の設定、計画立案、実施、評価の一連の過程を経験する。また、特に実施段階においては、これまで習得した技術の提供を通して、看護技術を個別化することの実際と意義を学習する。さらに、看護の目標を達成し、対象の健康状態の維持・向上を図るためには、科学的根拠に基づく実践が重要であり、看護学がこれを支える基盤になっていることを理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：看護技術学概論から各論を通して学習した内容を統合するために、現実の環境において生活する対象に看護過程を展開する。この過程を通して科学的根拠に基づく看護を対象の個性に応じて実践する意義を認める。</p> <p>目標：1. クライアント1名を対象としてアセスメント、看護問題・共同問題の明確化、看護目標の設定、計画立案、実施、評価という一連の過程を実際に経験する。 2. 1. を達成する過程に基づき、看護理論を適用し看護技術を個別化する方法を理解する。 3. 1. 2. を達成する過程を通して、看護職には看護の目標達成に向けて科学的根拠と高い倫理観に基づき看護実践を展開する責任があることを確認する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1, 2	実習オリエンテーション	講 義	・日々、①学習計画用紙を提出する。提出後、できるだけ早く教員のコメントを記載した①学習計画用紙の返却を受ける。 ・実習終了後、①学習計画用紙、②実習記録、③レポートを作成し、担当教員へ提出する。	山下、大川
	3, 4	グループ別オリエンテーション	演 習		
	5-43	フィールドにおける実習 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)	実 習		山下、肥後、保坂、大川、土井、高橋さ、田渕、服部、河内、木村、佐藤
	44, 45	統合カンファレンス	演 習		
<p>【期間】 第1クール 平成29年2月13日(月)より2月24日(金) 学生約40名が実習 第2クール 平成29年2月27日(月)より3月10日(金) 学生約40名が実習</p> <p>【場所】 第1クール 前橋赤十字病院 6病棟 群馬県立心臓血管センター 4病棟 第2クール 前橋赤十字病院 5病棟 群馬県立心臓血管センター 3病棟</p> <p>【内容・方法】 病院に入院し生活している 1 名の対象を受け持ちアセスメントから看護目標の設定、計画立案、実施、評価の一連の過程を経験する。</p>					
評価方法	行動目標の達成状況 100%				
教科書	特になし				
参考書 参考文献等	看護技術学概論、各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの教科書および配布資料				
備 考	原則として、看護技術学概論および看護技術学各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅳの単位を取得し、かつ看護技術学各論Ⅲ・Ⅴの単位取得の見込みがあることを履修の条件とする。				

看護学部

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	可
授業科目名	看護倫理学		科目履修	可	単位互換 可
科目番号	N11009	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他			
担当教員	肥後すみ子				
授業の概要	看護職者に必要な倫理の知識を学び、倫理的問題に直面したときに必要な行動を選択するための態度の基礎を学習する。また、実践看護における倫理原則の特徴とその遵守の重要性を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>学科目的：生命倫理に関する基礎的理解に基づき、看護実践における倫理原則の特徴とその遵守の重要性を理解する。</p> <p>学科目標：1. 看護実践において看護師が遭遇する倫理的問題を理解する。 2. 看護実践における倫理原則を理解する。 3. 看護師の倫理的責任を理解する。 4. アドボケーターとしての看護師の役割を理解する。 5. 看護師として倫理的な行動をとることの重要性を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護実践において遭遇する倫理的問題	講義 演習	適宜指示	肥後
	2	看護者の倫理綱領			
	3	看護実践における倫理原則			
	4	看護師の倫理的責任と看護行為			
	5	患者の権利と自己決定			
	6	アドボカシー			
	7	患者の権利と自己決定を支援する他職種との協働			
評価方法	出席状況(10%)、レポート(90%)				
教科書	日本看護協会監修：新版・看護者の基本的責務 日本看護協会出版会 2011				
参考書 参考文献等	別途提示				
備 考	1年次に履修した「生命倫理」を復習しておいてください。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	可
授業科目名	看護対象擁護論		科目履修	可	単位互換
科目番号	N110010		クラス番号	N1	
授業形式	講義		必修選択区分	選択	
開講時期	4年次 後期semester		単 位	1単位 15時間	
科目責任者	肥後すみ子		そ の 他		
担当教員	肥後すみ子				
授業の概要	看護職者として倫理的な判断をするための基礎的能力を養うため、対象の人権とその擁護に関わる様々な事例を検討し、すべての看護職者に共通する役割としての対象擁護の本質及びその重要性を学ぶ。看護の質を保証するために看護実践における法と倫理の影響を学習し、対象の人権擁護における看護職の役割を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：看護の質を保証するために看護実践における法と倫理の影響を学習し、対象の人権擁護における看護職の役割を理解する</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の人権が確立されつつある現在までの歴史的過程を理解する 2. 対象の人権擁護に関係する法律および倫理宣言を理解する 3. 医療・看護の現場において対象の人権がどのように侵害される恐れがあるのか理解する 4. 対象の人権を擁護するために看護職者としてどのように行動すればよいのか、理解する 5. 対象を擁護することの重要性を理解する 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1～7	<p>学科目標の達成に向け、次のようなグループワークを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習中、学生が遭遇した倫理的問題を含むと思われる事例を取り上げ、問題を明確化する。 ・ 文献から医療・看護の現場における人権侵害の事例を分析する。 ・ 看護職者がアドボケイトとしての役割を果たすための方法を検討する 	講義 演習	適宜指示	肥後
評価方法	授業への出席状況・積極性(30%)、レポート(70%)などにより総合的に評価する。				
教科書	なし				
参考書 参考文献等	授業において提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	可
授業科目名	生涯発達看護学概論	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N12001	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	行田智子	そ の 他			
担当教員	行田智子、横山京子、田村文子、中西陽子、狩野太郎				
授業の概要	「人間の発達と健康」を通して学習した人間の生涯発達の各段階における正常な健康状態および正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する学習を前提とする。人間が受胎から誕生し死に至るまでの身体・心理・社会的変化である生涯発達の特徴を踏まえ、その生涯発達における潜在的・顕在的な健康上の問題およびその解決に向けて必要な看護実践並びに看護職者の役割について学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：対象の発達上の特徴を踏まえて看護を展開する意義を学習する。 目標 1. 生涯発達看護学の特徴と理念を理解する。 2. 各期における看護の対象および看護の目標を理解する。 3. 各期に生じやすい健康問題が対象とその家族に及ぼす影響を理解する。 4. 各期における人間の発達と健康の特徴を踏まえ個別的に看護を展開する必要性を理解する。 5. 各期における看護職者の役割を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	生涯発達看護学の観点、生涯発達看護学の定義、生涯発達看護学の対象・看護の目標・看護職者の役割	講義	事前：「人間の発達と健康」概論（母胎期）の復習 事後：各回の授業を復習し、レポートの母胎期をまとめる	行田
	2	母胎期にある胎児と胎児の発達に影響する母体の健康問題			行田
	3	母胎期にある対象の健康問題による家族への影響			
	4	母胎期の対象にかかわる看護職者の役割			
	5	乳幼児期・学童期にある対象の健康問題とそれに伴う症状・反応		事前：「人間の発達と健康」概論（乳幼児・学童期）の復習 事後：各回の授業内容を復習し、レポートをまとめる	横山
	6	乳幼児期・学童期にある対象の健康問題による家族への影響			
	7	乳幼児期・学童期にある対象にかかわる看護職者の役割			
	8	思春期・青年期にある健康問題とそれに伴う症状・反応、健康問題による家族への影響		事前：思春期・青年期の発達と特徴 事後：各回の授業内容を復習し、レポートをまとめる	田村
	9	思春期・青年期にある対象にかかわる看護職者の役割			
	10	成人期にある対象の健康問題とそれに伴う症状・反応			
	11	成人期にある対象の健康問題による家族への影響		事前：「人間の発達と健康」概論（成人期）の復習 事後：各回の授業内容を復習し、レポートをまとめる	中西
	12	成人期にある対象にかかわる看護職者の役割			
	13	老年期にある対象の健康問題とそれに伴う症状・反応、健康問題による家族への影響			
	14	老年期にある対象の看護職者の役割	演習	事前：各期をまとめレポートを作成しておく。事後：グループディスカッション内容のレポートをまとめ提出	狩野
15	各期における看護の特徴と看護職者の役割（グループディスカッション）	行田			
評価方法	個人及びグループのレポート10%、講義終了後のテスト90%による総合評価				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	授業中に資料を配付する。参考書等は必要に応じて授業中に提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否	
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅰ（母胎期）		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N12002	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 後期セメスター		単位	2単位 60時間		
科目責任者	行田智子		その他			
担当教員	行田智子、田村文子、松嶋弥生、橋爪由紀子、生方尚絵					
授業の概要	「人間の発達と健康各論Ⅰ」において学習した母胎期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。受胎から誕生に至る人間（胎児）とこれを体内に宿した人間（妊産婦）の潜在・顕在する健康上の問題を回避し、妊娠・出産並びに新生児期における母子の健全な発達を支援する方法を家族への支援も含め学習する。また、この過程を通し、効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：母胎期（妊娠・分娩・産褥・新生児）にある対象とその家族の健全な発達支援に向けて、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標：1. 母胎期にある対象の潜在・顕在する健康状態をアセスメントする。 2. 母胎期にある対象の状態に応じた看護を理解する。 3. 看護およびアセスメントに必要な母胎期の看護技術を習得する。 4. 事例のアセスメントに基づき、対象の個別性に応じた看護過程の展開方法を学習する。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	妊娠期にある対象への看護①：妊婦の観察に必要な情報収集の方法	講義・演習	事前：人間の発達と健康各論Ⅰ妊娠期の授業内容の理解 事後：授業内容の復習と教科書を熟読、第3回目グループワーク後課題提出	行田	
	2	妊娠期にある対象への看護②：妊娠期の基本的生活と相談、保健指導・相談に必要な知識、妊娠期の異常に対する看護			行田	
	3	妊娠期にある対象への看護③：妊娠期の心理・社会的行動、出産育児行動			行田	
	4	分娩期にある対象への看護①：分娩期の基礎知識と妊娠期における分娩への準備	事前：人間の発達と健康各論Ⅰ分娩期の授業内容の理解 事後：授業内容の復習	行田		
	5	分娩期にある対象への看護②：分娩期の観察視点と看護		行田		
	6	分娩期にある対象への看護③：分娩期の異常に対する看護、母胎期の安全管理		行田		
	7	産褥期にある対象への看護①：産褥期の観察視点と看護	事前：人間各論Ⅰの産褥期の経過と健康状態の復習と理解、事後授業内容の復習	行田		
	8	産褥期にある対象への看護②：母乳栄養と看護 産褥期にある対象への看護③：産褥期の異常と看護	事前：人間各論Ⅰ産褥期の経過と健康状態の復習と理解、事後：授業内容の復習	松嶋		
	9	新生児期にある対象への看護①：新生児の観察視点と看護	事前：人間各論Ⅰ新生児期の経過と健康状態の復習と理解、事後：授業内容の復習	橋爪		
	10	新生児期にある対象への看護②：新生児に起こりやすい異常と看護 産褥期に起こりやすい精神疾患		行田		
				事後：授業内容の復習	田村	
	11	看護過程の展開①： ウェルネス診断とは、 妊娠～産褥期及び新生児のアセスメント視点 演習のオリエンテーション	事前：前回までの授業内容の理解、事後：各期の視点と展開方法の復習、演習内容	行田		
	12	看護過程の展開②：事例の展開	事前学習：各講義時の資料及び演習オリエンテーションの内容を熟読 事後学習：演習翌日にレポート提出	行田		
	13	看護過程の展開及び技術演習 技術演習 ①沐浴 ②レオポルド診断法と胎児心音聴取 ③子宮底長（妊婦・褥婦）・腹囲の測定		松嶋		
14	〃	橋爪				
15	看護過程の発表	生方 他				
評価方法	出席状況5%、授業及び演習中の態度5%、課題レポート10%、ミニテスト及び講義終了後のテスト80%による総合評価					
教科書	系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 ウェルネスからみた母性看護過程 第2版 医学書院					
参考書 参考文献等	ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程 第2版 医歯薬出版 看護データブック 第4版 医学書院、女性生涯発達看護学 真興交易 ウイメンズヘルスナーシング 女性のライフサイクルとナーシング ニューベルヒロカワ ウイメンズヘルスナーシング 周産期ナーシング ニューベルヒロカワ 産科スタッフのための新生児学 メディカ出版					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅱ（乳幼児期・学童期）		科目履修	否	単位互換
科目番号	N12003	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期セメスター		単 位	2単位 60時間	
科目責任者	横山京子		そ の 他		
担当教員	横山京子 益子直紀 富永明子 生方尚絵				
授業の概要	この授業は、「人間の発達と健康各論Ⅱ」において学習した乳幼児期・学童期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。乳幼児期・学童期にある人間の潜在・顕在する健康上の問題を解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を家族への支援も含め学習する。またこの過程を通し、効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：乳幼児期・学童期にある対象の健全な発達支援に向けて個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標： 1. 子どもの入院生活と看護師の役割を理解する。 2. 子どもとその家族への看護実践の基本となる知識と技術を習得する。 3. 子どもの発達段階および健康状態に応じた看護について理解する。 4. 事例のアセスメントを通して、子どもを全人的に理解するための方法を理解する。 5. 事例のアセスメントに基づき、個別性に応じた看護過程を展開する方法を理解する。 6. 乳幼児期・学童期の子どもの看護に関する文献を閲読し、文献活用の意義を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	入院中の子どもと家族の看護	講義	*	横山
	2	症状を緩和するための方法①主な症状の観察と看護	講義	*	横山
	3	症状を緩和するための方法②主な症状の観察と看護	講義	*	横山
	4	急性期の子どもと家族への看護	講義	*	横山
	5	周手術期の子どもと家族への看護	講義	*	横山
	6	慢性期の子どもと家族への看護：セルフケア行動の獲得への援助	講義	*	横山
	7	障害のある子どもと家族への看護①	講義	*	横山
	8	障害のある子どもと家族への看護②	講義	*	横山
	9	低出生体重児と家族への看護	講義	*	横山
	10	子ども虐待・心の問題を持つ子どもと家族への看護	講義	*	横山
	11	染色体異常のある子どもと家族の看護	講義	*課題A提出	横山
	12	治療・処置を受ける子どもの看護①発達段階に合わせた与薬法	講義	*	横山
	13	治療・処置を受ける子どもの看護②固定・抑制	講義	*	横山
	14	治療・処置を受ける子どもの看護③プレパレーション	演習	*	横山
	15	治療・処置を受ける子どもの看護④プレパレーション	演習	*	横山
	16	治療・処置を受ける子どもの看護⑤学習成果発表	演習	*ワークシート提出	横山
	17	治療・処置を受ける子どもの看護⑥輸液・注射法	演習	*ワークシート提出	全員
	18	治療・処置を受ける子どもの看護⑦固定法	演習	*ワークシート提出	全員
	19	健康上の問題を持つ子どもの看護過程①オリエンテーション	講義	*	横山
	20	健康上の問題を持つ子どもの看護過程②情報収集	演習	* 課題B提出	横山
	21	健康上の問題を持つ子どもの看護過程③アセスメント	演習	*	横山
	22	健康上の問題を持つ子どもの看護過程④アセスメント	演習	・看護技術学各論Ⅴ において学習した 看護過程の復習 ・資料の自己学習 ・⑩終了後グループ ワークにより作成 した関連図・看護 計画提出	横山
	23	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑤アセスメント	演習		横山
	24	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑥関連図	演習		横山
	25	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑦関連図	演習		横山
	26	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑧関連図	演習		横山
	27	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑨看護計画立案	演習		横山
	28	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑩看護計画立案	演習		横山
	29	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑪学習成果発表	演習		横山
	30	施設から在宅移行における他職種・他機関との連携	講義	*	横山
評価方法	課題20% 講義終了後の筆記試験80%				
教科書	新体系 看護学全書 小児看護学①小児看護学概論 小児保健 メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社				
参考文献等	病と共に生きる子どもの看護：及川郁子監修 メヂカルフレンド社 発達に障害のある子どもの看護：及川郁子監修 メヂカルフレンド社 予後不良な子どもの看護：及川郁子監修 メヂカルフレンド社 中野綾美：小児看護学—小児看護技術— ナーシング・グラフィカ 29 メディカ出版 小野田千枝子監修：子どものフィジカル・アセスメント 金原出版 その他				
備考	課題A：子どもへの看護に必要な基礎知識の整理 課題B：小児看護学に関する文献の探索と閲読 * : テキスト該当箇所の予習と復習				

看護学部

科目区分	専門教育科目 専門科目			聴講	否	
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅲ (思春期・青年期)	科目履修	否	単位互換	否	
科目番号	N12004	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	3年次 前期セメスター	単位	2単位 60時間			
科目責任者	田村文子	その他				
担当教員	田村文子、龍野浩寿、中野あずさ、垣上正裕、横山京子、中西陽子					
授業の概要	この授業は、「人間の発達と健康各論Ⅲ」において学習した思春期・青年期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。思春期・青年期にある人間の潜在・顕在する健康上の問題に関し、特に生じやすい精神的側面の健康問題に焦点を当て、これを解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を家族への支援も含め学習する。また、この過程を通し、より効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：思春期・青年期にある対象の健全な発達支援に向けて、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標 1. 思春期・青年期にある対象の潜在・顕在する健康問題をアセスメントする。 2. 健康問題の解決・回避に向けた個別的な看護実践の過程展開を理解する。 3. 健康問題を解決・回避するために必要な技術を対象に応じて実施する。 4. 思春期・青年期にある対象の特性に応じて看護実践を個別化する意義を認める。					
授業の内容と 方法	回	授業内容	授業 形態	事前・事後学 習(学習課題)	担当	
	1	思春期・青年期にある人とその家族に関わる看護師の役割	講義		田村	
	2	精神障害とリハビリテーション	講義		田村	
	3	精神的健康問題をもつ人との関係形成をするための看護理論：人間関係論	講義		田村	
	4	精神的健康問題をもつ人を支援するするための理論：危機理論、セルフケア理論	講義		田村	
	5～ 6	精神的健康問題をもつ人との関係形成をするための技術：コミュニケーション、プロセスレコード	講義		中野 垣上 龍野	
	7	精神的健康問題をもつ人への看護援助①：セルフケアレベルのアセスメント	講義		田村	
	8	精神的健康問題をもつ人への看護援助②：①観察と症状アセスメントの方法、②症状アセスメント(幻覚・妄想、興奮、拒絶)	講義		統合失調症	田村
	9	精神的健康問題をもつ人への看護援助③：症状アセスメント(意欲低下、抑うつ、昏迷、自殺・自傷行為)	講義		気分障害	田村
	10	精神的健康問題をもつ人への看護援助④：症状アセスメント(不安、不眠、強迫)	講義			田村
	11	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑤：症状アセスメント(躁状態・攻撃的状態)	講義			田村
	12	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑥：症状アセスメント(操作的行為、解離性障害)	講義		パーソナリ テリ障害	田村
	13	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑦：統合失調症の経過別看護(急性期、消耗期、回復期)、行動制限と看護	講義			田村
	14	治療・検査を受ける人の看護①：各種検査、精神療法	講義			田村
	15	精神保健医療看護の変遷	講義			田村
	16	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑧：看護過程の展開[演習オリエンテーション]	講義			田村 中野
	17～ 22	精神的健康問題をもつ人への看護過程の展開[演習] 17～18：①② 19～20：③④ 21～22：⑤⑥	演習		・演習前課題 レポート 提出 ・演習終了後 レポート提 出	中野 田村 龍野 垣上
	23～ 24	治療・検査を受ける人の看護②：身体療法(薬物療法、電気痙攣療法)、社会療法(生活指導、作業療法、SSTなど)と看護	講義			田村
	25～ 26	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑨：家族支援、訪問看護、リエゾン精神看護	講義			田村
	27	小児期からの健康問題をかかえる人への看護援助：キャリアオーバー	講義			横山
28	青年期の身体的な健康問題をかかえる人への看護援助⑩：肥満	講義	中西			
29	精神的健康問題をもつ人と家族を支える法的基盤：精神保健福祉法、障害者自立支援法とサービス提供体制	講義	田村			
30	精神科におけるリスクマネジメント(転倒、身体拘束、自殺、無断離院など)	講義	田村			
評価方法	出席状況(10%)、演習(看護過程演習)レポート(10%)、講義終了後のテスト(80%)により総合的に評価する。					
教科書	武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2，医学書院，最新版 田中美恵子編著：精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版，最新版					
参考文献等	リンダ J. カルペニート著，新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック，第5版，医学書院，2006. ゲイル W. スチュアート他著，神郡 博監訳：精神看護学の新しい展開，医学書院 夏莉郁子：心病む母が遺してくれたもの，日本評論社，2013					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否	
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅳ (成人期)		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N12005	クラス番号	N1			
授業形式	必修選択区分 必修					
開講時期	3年次 前期 Semester		単位	2単位 60時間		
科目責任者	中西陽子	その他				
担当教員	中西陽子、廣瀬規代美、小林万里子、橋本晴美、浅見優子					
授業の概要	この授業は、「人間の発達と健康」各論Ⅳにおいて学習した成人期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。この時期の人間の潜在・顕在する健康上の問題を解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を学習する。また、この過程を通し効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：成人期にある対象の健全な発達支援に向けて、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標 1.成人期にある対象の潜在・顕在する健康問題をアセスメントする。 2.健康問題の解決・回避に向けた個別的な看護実践の方法を理解する。 3.健康問題を解決・回避するために必要な看護を、成人の対象に応じて展開する方法を理解する。 4.成人期にある対象の特性に応じて看護実践を個別化する意義を認める。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1～2	学科目ガイダンス 成人期にある対象の健康問題を理解する必要性とその方法:看護診断と看護過程1)	講義	必要に応じて課題を提示する。	中西 廣瀬	
	3	手術を受ける成人期にある対象への看護	講義		橋本	
	4～6	消化・吸収機能障害のある対象への看護1)～4) 1)症状アセスメント 2)検査・治療とその看護 3)消化・吸収機能障害の代表的疾患とその看護	講義		「人間の発達と健康」各論Ⅳ (成人期)の授業資料及び各自学習した課題学習の内容を必要に応じて復習する。	橋本
	7～9	呼吸機能障害のある対象への看護1)～3) 1)症状アセスメント 2)検査・治療とその看護 3)呼吸機能障害の代表的疾患とその看護	講義		廣瀬	
	10～12	肝機能障害のある対象への看護1)～3) 1)症状アセスメント 2)検査・治療とその看護 3)肝機能障害の代表的疾患とその看護	講義		中西	
	13～15	代謝機能障害のある対象への看護1)～3) 1)症状アセスメント 2)検査・治療とその看護 3)代謝機能障害の代表的疾患とその看護	講義		廣瀬	
	16	代謝機能障害のある対象への看護4) 演習①食品交換表を使用した献立作成 演習②自己血糖測定	演習	前回の授業資料を復習しておく。	廣瀬 中西 浅見	
	17	生殖機能障害のある対象への看護1) 1)症状アセスメント、検査・治療、生殖機能障害の代表的疾患とその看護	講義	必要に応じて課題を提示する。	中西	
	18	生殖機能障害のある対象への看護2) 1)症状アセスメント、検査・治療、生殖機能障害の代表的疾患とその看護	講義	「人間の発達と健康」各論Ⅳ (成人期)の授業資料及び各自学習した課題学習の内容を必要に応じて復習する。	小林	
	19～20	循環機能障害のある対象への看護1)～2) 1)症状アセスメント、検査・治療とその看護 2)循環器機能障害の代表的疾患とその看護	講義		廣瀬	
	21～22	膵機能障害のある対象への看護1)～2) 1)症状アセスメント、検査・治療とその看護 2)膵機能障害の代表的疾患とその看護	講義		中西	
	23	試験	試験		中西	
		24	成人期にある対象の健康問題を理解する必要性とその方法:看護診断と看護過程2)	講義	1～2回目の授業資料を復習しておく。	中西
	25～31	健康問題を持つ成人期にある対象への看護過程の展開①～⑦ [成人期事例による看護過程の展開] ①演習オリエンテーション ②～⑦事例展開演習	演習	必要な資料収集の課題を毎回提示する。	成人期 全教員	
評価方法	出席状況 (5%)、演習の参加状況・レポート (5%)、看護過程展開レポート (20%)、講義終了後のテスト (70%) により総合的に評価する。					
教科書	リンダ J. カルペニート=モイェ、新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック第10版、医学書院					
参考文献等	阿部光樹他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器、医学書院 金田智他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器、医学書院 河井伸子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝、医学書院 浅野浩一郎他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器、医学書院 雄西智恵美他：成人看護学 (第2版) 周手術期看護論、ヌーヴェルヒロカワ 日本糖尿病学会編：糖尿病食療法のための食品交換表 第6版、文光堂 浅野嘉延編集：看護のための臨床病態学、南山堂					
備考	上記の参考書は生涯発達看護学各論Ⅵ (実習) でも活用します。					

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否	
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅴ（老年期）		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N12006	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	3年次 前期 semester	単 位	2単位 60時間			
科目責任者	狩野太郎	そ の 他				
担当教員	狩野太郎、樋口友紀、福島昌子、中野あずさ					
授業の概要	この授業は、「人間の発達と健康各論Ⅴ」において学習した老年期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。老年期にある人間の潜在・顕在する健康上の問題を解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を家族への支援を含め学習する。また、この過程を通し、効果的な看護を展開するため研究成果に基づく知識・技術を活用することの重要性を学習する。					
学科目的 学科目標	目的：老年期にある対象の健全な発達支援に向け、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標1. 老年期の人の健康問題のアセスメントに必要な知識・技術を理解する。 2. 老年期の人の健康問題の解決・緩和・回避にむけた支援方法を理解する。 3. 老年期の人の健康問題を解決・緩和・回避するために必要な看護技術を実施する。 4. 老年期の事例を通して特性に応じた個別的な看護過程の必要性を理解する。					
授業の内容と 方法	回	授業内容	授業 形態	事前・事後学習(学 習課題)	担当	
	1	高齢者のフィジカルアセスメント技術	講義	①P74-121	狩野	
	2	コミュニケーション障害のアセスメント ー難聴/視力/言語障害の観察と理解	講義	①P197-210	狩野	
	3	コミュニケーション障害への支援 ー障害に応じた援助 (演習 A:コミュニケーション方法の検討)	演習	事前課題:学生のコミュニケーション体験	全教員	
	4	治療を必要とする高齢者の看護 1) ー検査、治療における援助(抑うつ)	講義	①P119-121、185-196、P223、263-269 ②P43-45、114-119	中野	
	5	治療を必要とする高齢者の看護 2) ー検査、治療を受ける高齢者・家族への援助	講義	①P212-214	樋口	
	6	治療を必要とする高齢者の看護 3) ー感染のリスクと管理	講義	①P243-249、 ②P202、215-221	狩野	
	7	治療を必要とする高齢者の看護 4) ー薬物療法の特徴と看護	講義	①P220-227、 ②P224-232	狩野	
	8	嚥下障害のある高齢者のアセスメント	講義	①P56-59	樋口	
	9	嚥下障害のある高齢者への食事支援 ・嚥下体操/とろみ食試食	演習	演習レポート	全員	
	10	嚥下障害のある高齢者の食事支援 ー食事介助方法と口腔ケア・胃ろう管理	講義	①P147-159	樋口	
	11	排泄障害のある高齢者のアセスメント ー失禁/尿閉/下痢/便秘	講義	①P159-170	福島	
	12	排泄障害のある高齢者の自立に向けた支援 ・排尿誘導、排泄用具の活用	講義	同上	福島	
	13	老年期特有の症状を持つ高齢者への支援 *中間試験	講義	12回までの授業内容の確認	狩野	
	14	認知症の高齢者と家族の理解 1) ー認知症に関する基本知識	講義	VTR 視聴感想文	狩野	
	15	認知症の高齢者と家族の理解 2) ー認知症によってもたらされる生活上の困難と支援	講義	①P277-296	狩野	
	16	認知症の高齢者と家族の理解 3) ー認知症高齢者を支える家族の理解と支援	講義	同上	狩野	
	17	治療を必要とする高齢者の看護 5) ー治療に伴う廃用症候群の予防と看護	講義	①P143-147	狩野	
	18	治療を必要とする高齢者の看護 6) ー高齢者のリハビリテーションと看護	講義	看護技術学のボディメカニクスを復習	狩野	
	19	歩行・移動困難にある高齢者の看護 (演習 C:麻痺のある人の床上運動と移動)	演習	①P124-136	全教員	
	20	慢性疼痛を抱える高齢者の看護	講義	①P49-50	H28年度着任教員	
	21	治療を必要とする高齢者の看護 7) ー手術を受ける高齢者のリスクと術後管理(治療方針の選択、せん妄、肺合併症)	講義	① P227 - 234271 - 276	狩野	
	22	治療を必要とする高齢者の看護 8) ー手術を受ける高齢者の看護 大腿骨頭部骨折の概要と術後管理	講義	①P253-256、 ②P136-143	福島	
	23	治療を必要とする高齢者の看護 9) 脳卒中により生じる機能障害と看護	講義	①P234-237	樋口	
	24	高齢者の社会資源活用と継続看護	講義	①P29-41	狩野	
	25	治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索 (演習 D-1)	演習	25-30 回事後課題: 看護過程展開用紙、 問題リストの個人課題提出	全教員	
	26	治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索(演習 D-2)	演習		全教員	
	27	治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索(演習 D-3)	演習		全教員	
	28	治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索(演習 D-4)	演習		全教員	
	29	事例の看護過程発表・レポート作成 (演習 D-5)	演習		全教員	
30	事例の看護過程発表・レポート提出 (演習 D-6)	演習	全教員			
評価方法	中間筆記試験 (45%)、終講筆記試験 (35%)、看護過程提出課題 (20%)					
教科書	① 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ② 系統看護学講座 専門 21 老年看護 病態・疾患 医学書院					
参考書 参考文献等	特になし					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否	
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅵ (実習)		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N12007	クラス番号	N1			
授業形式	実習	必修選択区分	必修			
開講時期	3年次後期	単 位	10単位 450時間			
科目責任者	田村文子	そ の 他				
担当教員	行田・松嶋・橋爪・着任予定者・横山・益子・富永・田村・龍野・中野・垣上・中西・廣瀬・着任予定者・橋本・浅見(優)・狩野・樋口・福島					
授業の概要	現実の実践環境に身を置きながら、母胎期から老年期までの発達段階の異なる様々な対象を受け持ち、その健康問題の解決・回避に向け看護過程を展開する。また、この実践を通して、対象の発達段階に対する理解を前提に個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。さらに、チームの一員としての役割及び保健医療福祉との連携、協働の意義を学習する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：生涯発達看護学概論・各論において学習した内容を総合し、様々な発達段階にある対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決・回避に向けて対象および環境と相互行為を展開する方法を学習する。</p> <p>目標：</p> <p>(1)発達段階各期にある対象の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解する。</p> <p>(2)発達段階各期にある対象の顕在・潜在する健康問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントする。</p> <p>(3)発達段階各期にある対象の顕在・潜在する問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価する。</p> <p>(4)発達段階各期にある対象への看護実践を通して看護の意義を見いだす。</p> <p>(5)保健・医療・福祉における看護の役割・機能を理解する。</p> <p>(6)発達段階各期の対象への看護実践を通して、看護の対象を生涯発達し続ける存在として捉え、その理解に基づき看護を実践することの意義を確認する。</p>					
授業の内容と方法	回	1クールの授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	各期別オリエンテーション・学内演習	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ガイドライン必読 ・生涯発達看護学概論・各論Ⅰ～Ⅴの復習 ・各期の行動目標、フィールドの特徴に応じて、実習に必要な学習課題を提示する ・各期終了後レポート ・5クール終了後統合レポート 	各期教員	
	2	各期別フィールドにおける実習(1)	実習			
	3	各期別フィールドにおける実習(2)	実習			
	4	各期別フィールドにおける実習(3)	実習			
	5	各期別フィールドにおける実習(4)	実習			
	6	各期別フィールドにおける実習(5)	実習			
	7	各期別フィールドにおける実習(6)	実習			
	8	各期別フィールドにおける実習(7)	実習			
	9	各期別フィールドにおける実習(8)	実習			
	10	学内演習	演習			
<p>【期間】平成28年10月3日(月)～平成29年2月3日(金)：2週間ずつ5クール</p> <p>【場所】前橋赤十字病院、伊勢崎市民病院、県立小児医療センター、群馬大学医学部附属病院、県立精神医療センター、医療法人赤城病院、地域活動支援センターピアーズ、指定就労継続支援B型事業所ラスター</p> <p>【教員】学生5名から6名の14グループを形成し、教員1名が担当する</p> <p>【内容・方法】主として各期にある対象者1名を受け持ち看護過程の展開を行う</p> <p>*原則として、各期3分の2以上の出席が必要</p>						
評価方法	各期実習における行動目標の達成状況90%、生涯発達看護学統合レポート10%					
教科書	指定なし					
参考書 参考文献等	生涯発達看護学概論、生涯発達看護学各論Ⅰ～Ⅴの配布資料 その他、別途提示する					
備 考	7月中に全体オリエンテーション予定、詳細は、実習要項参照					

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	可
授業科目名	地域健康看護学概論	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N13001	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	齋藤 基	そ の 他			
担当教員	齋藤 基、大澤真奈美、飯田苗恵、鈴木美雪、塩ノ谷朱美、坪井りえ				
授業の概要	地域健康看護学とは、地域に生活する個人、家族及び集団の健康生活を目指し、これらの対象が地域社会に生活する場の環境に着目し、家庭環境、保健・医療・福祉施設環境、学習環境、労働環境、包括的地域環境を活動領域として捉える。それぞれの環境の特徴との関連から健康問題を把握し、看護活動を展開するとともに、地域社会のシステム化により組織的に問題解決を目指す看護のあり方を追求する学問である。この授業においては、地域健康看護学領域における概念の基盤となる地域看護活動の目的、対象、方法及び活動領域における特徴について学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：地域における様々な環境下において生活する人々に対し、その発達段階に応じた健康の保持・増進に向けて展開する看護の意義を学習する。 目標 1. 地域における看護の基本理念を理解する。 2. 地域における看護の対象及び活動領域を理解する。 3. 地域における看護活動の展開過程及び看護技術を理解する。 4. 地域における看護活動の根拠となる法律及び活動の背景となる歴史を理解する。 5. 地域における看護と保健医療福祉行政との関連を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	地域における看護の概念	講義	毎回の授業終了時に自己学習課題を提示する。	齋藤
	2	日本における公衆衛生看護の変遷			
	3	地域における看護の対象			
	4	地域における看護の活動領域①			飯田
	5	地域における看護の活動領域②			
	6	地域における看護の展開過程①			大澤
	7	地域における看護の展開過程②(活用可能な理論)			
	8	地域における看護の展開過程③(地域診断)			
	9	地域における看護活動の方法(保健指導・活用可能な理論)			齋藤
	10	地域における看護活動の技術①(家庭訪問・健康相談)			
	11	地域における看護活動の技術②(健康教育・健康診査)			
	12	地域における看護活動の技術③(訪問看護)			飯田
	13	地域における看護の展開過程④(地域診断)			
	14	地域における看護の展開過程⑤(地域診断)			
15	地域における看護活動に関わる法規	演習	課題レポートを提出する。	大澤 他	
			講義		齋藤
評価方法	筆記試験(60%)、課題レポート(25%)、出席状況(15%)				
教科書	1) 標奈美子他編：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論，医学書院 2) 中村裕美子他編：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術，医学書院				
参考書 参考文献等	1) 厚生統計協会編：国民衛生の動向，厚生統計協会				
備考	演習以外の授業については聴講が可能である。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	可
授業科目名	地域健康看護学各論 I (家庭環境)		科目履修	可	単位互換 否
科目番号	N13002	クラス番号	N 1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	飯田苗恵	そ の 他			
担当教員	飯田苗恵、鈴木美雪、塩ノ谷朱美、坪井りえ				
授業の概要	家庭環境において、様々な発達段階にある対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避に向けて看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。地域における看護活動は、家庭に生活の場を置く家族を一つの単位として捉えたアプローチを行うことを基本とする。家族は、家族員の日常生活におけるヘルスケアケア機能を有しており、育児や介護、家族員の有病時のケアは生活の営みと共にある。この授業においては、地域で療養する人々とその家族を理解し、多職種と協働する中で、健康問題の解決や発生の回避(予防)とともに家族の発達課題を成し遂げられるように支援する看護活動を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：家庭環境において、様々な発達段階にある対象の顕在、潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避に向けて看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。 目標：1. あらゆる健康レベルにある家族の日常生活、及び家族を一つの単位とした家庭内の健康保持増進のためのケア機能を理解する。 2. 家庭で生活する療養者・家族等を対象に展開する在宅ケアにおける看護活動の基本となる知識・技術・態度を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	対象(療養者・家族・コミュニティ)の理解	講義	授業時に課題を提示	飯田
	2	家庭環境における看護過程(1)			
	3	家庭環境における看護の援助技術(1) コミュニケーション技術			
	4	家庭環境における看護の援助技術(2) 生活援助技術			
	5	家庭環境における看護の援助技術(3) 医療的ケア①			
	6	家庭環境における看護の援助技術(4) 医療的ケア②			
	7	家庭環境における看護の援助技術(5) 安全管理			
	9	家庭環境における看護過程(2)	演習		
	8	家庭環境における看護と多職種連携(関連図)	講義		
	10	家庭環境における看護の展開(1) (障がい児・家族)			
	11	家庭環境における看護の展開(2) (重篤な状態にある療養者・家族)			
	12	家庭環境における看護過程(3)	演習		鈴木 塩ノ谷 坪井 飯田
	13	在宅看護と法制度	講義		飯田
	14	在宅ケアと法制度			
15	療養者・家族への質保障				
評価方法	筆記試験 80%、出席状況 5%、課題レポート 15%、				
教科書	河原加代子他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院, 2013				
参考書 参考文献等	必要に応じて適宜提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	可
授業科目名	地域健康看護学各論Ⅱ (保健・医療・福祉施設環境)	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	N13003	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	大澤真奈美	そ の 他			
担当教員	大澤真奈美、鈴木美雪、塩ノ谷朱美、坪井りえ				
授業の概要	疾患や障害などにより様々な健康問題を持つ対象は、保健・医療・福祉施設を利用し生活している。これらを生活の場として位置づけ、これらの場を利用する人々及びその家族に対して顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避（予防）に向けて看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。保健医療福祉施設環境を利用する対象は、家庭を生活の基盤としており、健康問題の発生・回避（予防）においては、保健医療福祉施設環境と家庭環境の影響が大きい。この授業においては、これら両側面から健康問題の特徴を理解し、問題を解決するための看護活動を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	教育目的：様々な健康問題を持ち、保健・医療・福祉施設において生活または、これらの施設を利用する人々及びその家族に対する地域看護活動の実際を学習する。 教育目標： 1. 保健医療福祉施設環境において、疾患や障害を抱え生活する対象の特徴、および生活と健康との関連を理解する。 2. 対象の健康に関する課題と地域における取り組みの現状（諸施策や保健活動）を理解する。 3. 地域生活の営みの中で対象の疾病・障害の回復・改善と健康を保持増進するための看護活動を理解する。 4. 保健医療福祉施設環境という視点から地域で生活する人々に対する看護活動のあり方を考える。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	感染症対策と地域看護活動（1）－日本の感染症の現状と地域における感染症対策の変遷	講義	事後学習： 講義は前半及び後半に分けて筆記試験（中間・期末）を行うので、授業内容についてプリントを中心に復習する。演習時に課題を提示する。	大澤
	2	感染症対策と地域看護活動（2）－感染症の集団感染発生への対応と発生予防			
	3	感染症対策と地域看護活動（3）－結核発生時の対応と予防			
	4	難病対策と地域看護活動（1）－地域における難病対策の変遷			鈴木
	5	難病対策と地域看護活動（2）－難病療養者の特徴と日常生活への保健指導			
	6	難病対策と地域看護活動（3）－難病療養者に対する地域看護活動の展開			
	7	中間試験・まとめ			大澤
	8	精神保健福祉対策と地域看護活動（1）－地域における精神保健福祉対策の変遷			
	9	精神保健福祉対策と地域看護活動（2）－精神障害者の社会復帰に向けた看護活動の展開			
	10	精神保健福祉対策と地域看護活動（3）－地域における心の健康づくり対策			坪井
	11	自然災害の発生対応および健康危機管理における地域看護活動			
	12 13	健康危機管理（自然災害）演習	演習		
	14	山村・豪雪地帯の特徴を踏まえたへき地における地域看護活動	講義		塩ノ谷
	15	地区組織活動の育成・支援、ソーシャルキャピタル醸成における地域看護活動			
評価方法	筆記試験 80%（前半 40%、後半 40%）及び演習課題 20%				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	厚生統計協会編：国民衛生の動向（最新版）、国民福祉の動向（最新版） 最新公衆衛生看護学総論・各論Ⅰ・各論Ⅱ（日本看護協会出版会） 看護法令要覧 最新版				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	可	
授業科目名	地域健康看護学各論Ⅲ (学習環境)		科目履修	可	単位互換 否	
科目番号	N13004	クラス番号	N1			
授業形式	講義	必修選択区分	必修			
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間			
科目責任者	齋藤 基	そ の 他				
担当教員	齋藤 基、横山京子、大澤真奈美、鈴木美雪、塩ノ谷朱美、坪井りえ					
授業の概要	乳幼児期から思春期における発達段階にある個人・集団が学習活動を行う場である保育園・幼稚園、学校などの学習環境を対象の生活の場として位置づけ、これらの場に身を置く対象に対して顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避(予防)に向けて看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。学習活動を行う対象は、家庭を生活の基盤としており、学習活動に関わる健康問題の発生・回避(予防)においては、学習環境と家庭環境の影響が大きい。この授業においては、これら両側面から健康問題の特徴を理解し、問題を解決するための看護活動を学習する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：生涯学習の視点から学習環境を捉え、そこで生活する対象の健康を保持・増進するための看護活動を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習環境において生活する対象の特徴および生活と健康の関連を理解する。 2. 対象の健康に関する課題と取り組みの現状(諸施策や活動)を理解する。 3. 生活の営みの中で対象の健康を保持増進するための看護活動を理解する。 4. 学習環境という視点から地域で生活する人々に対する看護活動のあり方を考える。 					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当	
	1	乳幼児・児童・生徒の健康を支える看護活動の理念及びシステム	講義	毎回の授業終了時に自己学習課題を提示する。	齋藤	
	2	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動①(事故防止等)				塩ノ谷
	3	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動②(家庭訪問指導)				
	4	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動③(母子歯科保健)				
	5	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動④(予防接種)			大澤	
	6	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動⑤(虐待予防)				
	7	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動⑥(事例検討)	演習	齋藤他		
	8	児童・生徒の健康問題の特徴と看護活動(AIDS感染予防)	講義		鈴木	
	9	児童・生徒の健康を支える看護活動①(学校保健活動)			齋藤	
	10	児童・生徒の健康を支える看護活動②(学校保健活動)			坪井	
	11	児童・生徒の健康を支える看護活動③(養護教諭の役割)			大澤	
	12	児童・生徒の健康を支える看護活動④(性教育の実際)				
	13	発達に障害のある乳幼児・児童への看護活動				鈴木
	14	健康問題を持つ児童・生徒の学習環境適応における問題			横山	
15	健康問題を持つ児童・生徒の学習環境適応に向けた看護活動の実際					
評価方法	筆記試験(70%)、課題レポート(15%)、出席状況(15%)					
教科書	松田正巳他著：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動，医学書院					
参考書 参考文献等	1) 平山朝子編：公衆衛生看護学大系③母子保健指導論，日本看護協会出版会 2) 厚生統計協会編：国民衛生の動向，厚生統計協会 など					
備 考	聴講が可能である。					

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	可
授業科目名	地域健康看護学各論Ⅳ (労働環境)		科目履修	可	単位互換 可
科目番号	N13005	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	大澤真奈美	そ の 他			
担当教員	大澤真奈美、鈴木美雪、塩ノ谷朱美、坪井りえ				
授業の概要	<p>青年期から老年期に及ぶ発達段階にある個人、集団が労働に従事する様々な環境を対象の生活の場として位置付け、これらの労働環境に身を置く対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避(予防)に向けて看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。労働とは、人々が環境との相互行為により、生活手段や生産手段を作り出し、経済的な基盤を確立するとともに社会生活における事故の存在意義を確立するために行う重要な活動であり、地域において人々の労働生活を支援する看護職の役割は大きい。また、労働に従事する人々の多くは、家庭を生活の基盤としておくものであり、労働生活にかかわる健康問題の発生・回避(予防)においては、労働環境および家庭環境の影響が大きい。この授業においては、これらの側面から健康問題の特徴を理解し、地域において看護活動を展開する方法を学習する。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：様々な環境下において就労する対象の健康の保持増進に向けて、個人ならびに集団と相互行為を展開するための知識・技術・態度を学習する。</p> <p>目標：1. 労働環境において生活する対象の特徴および生活と健康の関連を理解する。 2. 対象の健康に関する課題と取り組みの現状(諸施策や活動)を理解する。 3. 生活の営みの中で対象の健康を保持増進するための看護活動を理解する。 4. 労働環境という視点から地域で生活する人々の対する看護活動のあり方を考える。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	労働衛生対策と産業看護活動(1)：労働基準法、労働安全衛生法、労働衛生対策の変遷	講義		大澤
	2	労働衛生対策と産業看護活動(2)：労働衛生管理体制、産業保健活動、労働衛生マネジメントシステム			
	3	労働衛生対策と産業看護活動(3)：職業性疾病と労働衛生対策			
	4	労働衛生対策と産業看護活動(4)：THP、メンタルヘルス対策、過重労働対策等			
	5	労働衛生対策と産業看護活動(5)：中小企業へのサポート、地域・職域連携			
	6	労働衛生対策と産業看護活動(6)：職場の健康づくり、メンタルヘルス対策			
	7	中間試験 演習①オリエンテーション-事業場が行なう職業性疾病予防対策と産業保健活動	演習		大澤、鈴木、塩ノ谷、坪井
	8	演習②-グループワーク			
	9	演習③-発表			
	10	成人保健対策と地域看護活動(1)：健康づくり対策、生活習慣病予防対策の変遷	講義		塩ノ谷
	11	成人保健対策と地域看護活動(2)：成人期の健康課題とポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ(特定健診・特定保健指導)			
	12	成人保健対策と地域看護活動(3)：がん対策と予防における保健指導、喫煙対策と禁煙指導			
	13	高齢者保健福祉対策と地域看護活動(1)：高齢者保健福祉対策の変遷と高齢化の現状、課題			
	14	高齢者対策と地域看護活動(2)：介護予防(運動機能・栄養・口腔・閉じこもり・認知症・うつ)			
15	高齢者対策と地域看護活動(3)：認知症高齢者を支える地域包括ケアシステム、行政・在宅介護支援センター・地域包括センター等の役割機能	大澤			
評価方法	筆記試験80%(前半40%、後半40%)および演習(20%)				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	厚生統計協会編：国民衛生の動向(最新版)、国民福祉の動向(最新版) 最新公衆衛生看護学各論Ⅰ・各論Ⅱ(日本看護協会出版会)、看護法令要覧 最新版				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	否
授業科目名	地域健康看護学各論V-1 (家庭環境実習)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N13007	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 後期semester	単 位	2単位 90時間		
科目責任者	齋藤 基	そ の 他			
担当教員	齋藤 基、大澤真奈美、飯田苗恵、鈴木美雪、塩ノ谷朱美、坪井りえ				
授業の概要	地域に生活する人々の生活の場である家庭環境、保健・医療・福祉施設環境、労働環境、学習環境及び包括的地域環境において、対象の健康生活を目指し、看護職者が提供する看護実践の目的と特徴を理解する。本授業では、家庭環境、保健・医療・福祉施設環境、包括的地域環境をフィールドとし、個人及び集団との相互行為を展開する。また、それぞれの特徴と健康との関連の理解に基づき、地域全体の健康状態を査定し、個人及び集団を対象として看護活動を計画、実施する方法を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：地域健康看護学概論・各論で学習した内容を総合し、地域で生活する個人及び集団に顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決回避に向けて看護活動を展開する方法を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する人々と生活の場の特徴に応じた相互行為を展開し、生活を営む環境と健康の関係性を理解する。 2. 地域で生活する個人及び集団の健康をアセスメントし、看護計画を立案する。 3. 地域で生活する個人及び集団に対応した看護実践の特徴を理解する。 4. 地域で生活する個人及び集団の看護において、保健・医療・福祉との連携・調整の重要性を確認する。 5. 地域で生活する個人及び集団の健康を支える地域ケアシステムにおける看護の役割・機能の意義を見出す。 				
	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	訪問看護ステーション実習	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学実習ガイドラインを熟読する。 ・地域健康看護学概論、各論Ⅰ～Ⅳを復習する。 ・実習フィールドごとに課題を提示する。 	齋藤 大澤 飯田 鈴木 塩ノ谷 坪井
	2	訪問看護ステーション実習	実習		
	3	訪問看護ステーション実習	実習		
	4	訪問看護ステーション実習	実習		
	5	学内演習	演習		
	6	通所介護又は通所リハビリテーション施設実習	実習		
	7	通所介護又は通所リハビリテーション施設実習	実習		
	8	通所介護又は通所リハビリテーション施設実習	実習		
	9	地域包括支援センター実習	実習		
	10	学内演習・統合演習	演習		
	<p>【期間】 2週間</p> <p>【場所】 訪問看護ステーション、通所介護又は通所リハビリテーション施設、地域包括支援センター</p> <p>【グループ編成】 1グループ当たり学生5～6人で14グループを編成する。</p> <p>【方法】 オリエンテーション、学内演習、臨地実習により学習活動を展開する。</p>				
評価方法	各実習フィールドにおける行動目標の達成状況 (90%)、統合レポート (10%)				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	地域健康看護学概論、地域健康看護学各論Ⅰ～Ⅳで使用した教科書、配付資料、その他、担当教員が提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	否
授業科目名	地域健康看護学各論V-2 (公衆衛生看護実習)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N13008	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	保健師必修		
開講時期	3年次 後期 Semester	単 位	4単位 180時間		
科目責任者	齋藤 基	そ の 他			
担当教員	齋藤 基、大澤真奈美、飯田苗恵、鈴木美雪、塩ノ谷朱美、坪井りえ				
授業の概要	地域に生活する人々の生活の場である家庭環境、保健・医療・福祉施設環境、労働環境、学習環境及び包括的地域環境において、対象の健康生活を目指し、看護職者が提供する看護実践の目的と特徴を理解する。本授業では、学習環境、労働環境及び包括的地域環境をフィールドとし、個人及び集団との相互行為を展開する。また、それぞれの環境の特徴と健康との関連の理解に基づき、地域全体の健康状態を査定し、個人及び集団を対象として看護活動を計画、実施する方法を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：地域健康看護学概論・各論で学習した内容を総合し、地域で生活する個人及び集団に顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決回避に向けて看護活動を展開する方法を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する人々と生活の場の特徴に応じた相互行為を展開し、生活を営む環境と健康の関係性を理解する。 2. 地域で生活する個人及び集団の健康をアセスメントし、看護計画を立案する。 3. 地域で生活する個人及び集団に対応した看護実践の特徴を理解する。 4. 地域で生活する個人及び集団の看護において、保健・医療・福祉との連携・調整の重要性を確認する。 5. 地域で生活する個人及び集団の健康を支える地域ケアシステムにおける看護の役割・機能の意義を見出す。 				
	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション・学内演習	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学実習ガイドラインを熟読する。 ・地域健康看護学概論、各論Ⅰ～Ⅳを復習する。 ・実習フィールドごとに課題を提示する。 	齋藤 大澤 飯田 鈴木 塩ノ谷 坪井
	2～3	事業所実習・学校実習	実習		
	4～5	学内演習（事前学習課題の実施）	演習		
	6～9	保健福祉事務所・市保健所実習	実習		
	10	学内演習	演習		
	11～14	市町村保健センター実習	実習		
	15	学内演習	演習		
	16～19	市町村保健センター実習	実習		
	20	学内演習・統合演習	演習		
	<p>【期間】4週間</p> <p>【場所】保健福祉事務所、中核市保健所、市町村保健センター、事業所、学校</p> <p>【グループ編成】保健所、市町村実習では、1グループ学生2～3人、事業所実習、学校実習では1グループ学生5～6人でグループを編成する。</p> <p>【方法】オリエンテーション、学内演習、臨地実習により学習活動を展開する。</p>				
評価方法	各実習フィールドにおける行動目標の達成状況（90%）、統合レポート（10%）				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	地域健康看護学概論、地域健康看護学各論Ⅰ～Ⅳで使用した教科書、配付資料、その他、担当教員が提示する。				
備 考	本科目は保健師課程の履修者を対象とする。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	否
授業科目名	人間集団と健康（疫学）	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N13009	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	保健師（必修）看護師（選択）		
開講時期	4年次 前期 Semester	単 位	2単位		
科目責任者	宮崎有紀子	そ の 他			
担当教員	宮崎有紀子				
授業の概要	この授業は、人間集団における健康状態とそれに関連する要因の分布を明らかにする疫学を学習し、人間集団の健康状態に影響する生活・環境の諸要因を理解する。また、地域集団の健康水準を表す指標データの査定や疫学統計調査に必要な知識・技術を学習する。さらに、これらの過程を通して、疾病予防、健康の保持・増進に向けた科学的根拠に基づく地域保健活動の意義を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：健康やその他の事象の分布を、人間の特徴（性、年齢、その他）や場所（地理的）、時間（時間、日、月、年）などにより分けて、どのような要因がどのように関与し結果をもたらしたか、について論理的に学習する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康現象の頻度ないし分布について理解する。 2. 規定要因を理解する。 3. リスクの考え方を理解する。 4. 健康管理の評価を理解する。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	歴史にみる疫学の業績	講義	各授業後に課題を提示	宮崎
	2	記述疫学と仮説設定			
	3	横断研究・生態学的研究			
	4	症例対照研究			
	5	コホート研究			
	6	介入研究・疫学研究における倫理			
	7	バイアスと因果関係			
	8・9	疾病頻度の指標	演習		
	10・11	スクリーニング			
	12・13	主な疾患の疫学			
14・15	保健統計調査				
評 価 方 法	期末試験 70%・演習課題 30%				
教 科 書	看護学生のための疫学・保健統計，南山堂				
参 考 書 参 考 文 献 等	厚生統計協会編：国民衛生の動向（最新版）				
備 考	講義日程は別途掲示する。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	機能看護学概論	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N14001	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期semester	単位	1単位 15時間		
科目責任者	巴山玉蓮	その他			
担当教員	巴山玉蓮、岩波浩美、清水裕子、木村美香、河内直美				
授業の概要	機能看護学は、看護学生を含む看護職者の成長・発達支援とその役割と機能の発揮に焦点をあて、究極的には、対象の健康状態の維持・向上に貢献することを目指す学問である。この授業においては、機能看護学の諸側面である看護教育、看護管理、看護政策に関してその概要を学習する。また、これらの充実が看護職者個人やシステムとしての看護の質に影響し、対象の健康状態の改善に貢献することを学習する。さらに、この過程を通し看護職者が制度的側面に関わりその機能と役割を発揮する意義を理解する。				
学 科 目 的 標	目的：国内外の様々な場において看護職者が果たしている役割と看護の機能を学習することを通して、機能看護学の目的と意義を理解する。 目標：1. 社会における看護の機能と看護職者の役割を理解する。 2. 看護の機能を発揮するために必要な要素を理解する。 3. 看護職者がシステムを開発・維持・変革する意義を認める。 4. 看護職者が発達する意義を認める。 5. 機能看護学を学ぶ意義を認める。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	I. 機能看護学とは －本学のカリキュラムにおける機能看護学の位置づけ －機能看護学の目的と特徴 －機能看護学を構成する2領域	講義	『看護者の基本的責務』2、3、6ページを精読する	巴山 岩波
	2	II. 社会における看護の機能と看護職者の役割 －看護の機能 －社会状況の変化に対応した看護の機能の発揮 －看護の機能の発揮に必要な看護職者の役割遂行の実際		『看護のための人間発達学第4版』第7章170-177ページを精読する	岩波
	3	III. 看護の機能の発揮に向けた看護職者の発達（1） －看護学生を含む看護職者の発達の過程 －自己同一性の形成過程		『看護のための人間発達学第4版』第7章177-184ページを精読する	岩波
	4	III. 看護の機能の発揮に向けた看護職者の発達（2） －職業的社会化 －看護学生を含む看護職者の発達に必要な要素		「システム」という用語を2つ以上の辞書を用いて調べる	河内
	5	IV. 看護の機能を発揮する基盤となるシステムの開発・維持・変革（1） －システムとは －看護の機能を発揮する基盤となるシステムの実際		「変革」という用語を調べ、具体例を用いて説明する	巴山 木村
	6	IV. 看護の機能を発揮する基盤となるシステムの開発・維持・変革（2） －システムの開発・維持・変革 －システムの開発・維持・変革の実際		第1回から第6回の授業内容を復習する	巴山 清水
	7	まとめ －看護の機能の発揮に向けた看護学生を含む看護職者の発達に必要な要素 －看護の機能の発揮に必要なシステムの開発・維持・変革を担う看護職者に求められる要素		演習	討議内容を振り返り、自己の考えをレポートにまとめる
	【レポート課題】『機能看護学概論を通して学んだこと』 7回の授業を通して得た知識に基づき、「機能看護学概論を通して学んだこと」を述べる				
評価方法	レポート（100%）				
教科書	舟島なをみ：看護のための人間発達学 第4版，医学書院，2011. 日本看護協会編：新版看護者の基本的責務一定義・概念／基本法／倫理，日本看護協会出版会，2014. ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2014.				
参考書 参考文献等	必要に応じて適宜提示する				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	機能看護学各論Ⅰ（看護教育）	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N14002	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単位	1単位 15時間		
科目責任者	岩波浩美	その他			
担当教員	岩波浩美、河内直美				
授業の概要	看護教育学は、看護学各領域の教育に共通して普遍的に存在する要素を対象として研究を展開する学問であり、この研究成果を活用することにより、看護学生を含むすべての看護職者個々の発達を支援する。また、それを通し、質の高い看護を提供することを目指す。この授業においては、機能看護学の重要な一領域である看護教育学に焦点を当て、看護教育制度や看護学実習の特徴および看護継続教育における学習ニーズや教育プログラムの特徴に関して学習する。さらに、看護教育学研究の意義や研究成果活用の実際を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：看護職者および看護学生の発達支援に向けて看護職者が教育的機能を発揮する意義と方法を学習する。</p> <p>目標：1. 看護教育学の特徴を理解する。 2. 看護師養成教育、看護学教育の現状と課題を理解する。 3. 看護専門職の教育における主体的学習の意義を確認する。 4. 看護専門職が教育的機能を発揮する必要性を認める。 5. 看護教育学研究の意義と研究成果活用の実際を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	I. 看護教育学の特徴 －看護教育学の定義 －看護教育学の目的と研究対象 －看護教育学を学習する意義	講義	学校教育法第83条、108条、124条、134条を精読する	岩波
	2	II. 看護師養成教育の現状と課題（1） －看護教育制度の成り立ち －看護教育制度の特徴		本学の教育理念と看護学部の教育目的と目標を学生便覧から抜粋する	岩波
	3	II. 看護師養成教育の現状と課題（2） －日本の看護教育制度の沿革 －諸外国の看護教育制度の現状		「看護者の倫理綱領」第8条および解説を精読する	岩波 河内
	4	III. 看護学教育課程 －看護基礎教育課程のカリキュラムの特徴 －大学と専門学校のカリキュラムの相違 －大学において看護学を学ぶ意義		「教育評価」の意義を教科書から抜粋する	岩波
	5	IV. 看護専門職に必要な自律的態度 －専門職の条件 －教育評価に関する基本的知識 －評価の用具を用いた自己評価の実際		「看護基礎教育」「看護卒後教育」「看護継続教育」の定義を教科書から抜粋する	岩波
	6	V. 看護専門職者のキャリア・デベロップメントと看護継続教育 －看護職者のキャリア・デベロップメントと自律的継続的学習 －看護職者のキャリア・デベロップメントと看護継続教育		看護学実習中にうまくいかなかった場面を記述する	岩波
	7	VI. 看護教育学研究の意義と活用 －看護教育学研究の対象と目的 －看護教育学研究の実例と活用 －看護教育学研究の意義		第1回から第7回の授業内容を復習する	岩波
	8	筆記試験			
評価方法	筆記試験（100%）				
教科書	杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学第6版，医学書院，2015.				
参考書 参考文献等	必要に応じて適宜提示する				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	機能看護学各論Ⅱ（看護管理）		科目履修	可	単位互換
科目番号	N14003	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	清水裕子	そ の 他			
担当教員	清水裕子、巴山玉蓮、木村美香				
授業の概要	質の高い看護を提供するために人的・物的資源および環境を管理・調整する意義と方法を学習する。看護職者の機能と役割の拡大およびその質の向上をキャリア発達という視点から学習する。また、わが国と諸外国の看護システムの比較検討やCNS制度の導入・普及に関する諸問題の検討をとおして看護の役割の拡大と看護管理システム構築における人的・物的・経済的資源活用の実際に関して学ぶ。看護職者の満足度調査や業務改善などの研究成果に触れ、看護管理学の研究領域・方法・対象を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：質の高い看護を提供するために人的・物的・財的資源と情報および環境を管理・調整する意義と方法を学習する。 目標：1. 保健医療システムが有効に機能するために組織の成立、存続、発展が重要であることを理解する。 2. 組織の成立、存続、発展にむけた管理（management）の重要性を理解する。 3. 看護職者として組織の成立、存続、発展に主体的に参画することの意義を認める。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	保健医療システムの目的と機能 －保健医療システムとは －保健医療システムの変遷	講義	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する。 事後：配布資料を基に各回の講義内容を復習する。	巴山
	2	保健医療システムが有効に機能するための組織 －組織の定義 －組織の成立要件 －組織の構造と機能			木村
	3	組織の成立、存続、発展のための管理（1） －管理の定義 －管理の要素			清水
	4	組織の成立、存続、発展のための管理（2） －管理の過程			
	5	組織の成立、存続、発展のための管理（3） －人的・物的・経済的資源、情報および予算の管理			木村
	6	組織における医療安全と感染管理 －基本的な考え方			清水
	7	医療におけるサービス			巴山
	8	筆記試験			
評価方法	筆記試験（100％） ※試験日時は別途指定する。				
教科書	指定なし/講義にて別途資料配付				
参考書 参考文献等	原玲子：学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門，日本看護協会出版会，2011. 中西陸子編：看護サービス管理 第3版 医学書院，2007. 講義中に必要に応じて適宜提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	機能看護学各論Ⅲ－１（看護政策）	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N14014	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	保健師：必修／看護師：選択		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	巴山玉蓮	そ の 他			
担当教員	巴山玉蓮、清水裕子、木村美香				
授業の概要	保健医療制度およびこれらに関連する諸法規に関する理解を前提とし、政策的側面から看護の質を保証するための知識・技術に関して学習する。具体的には、市町村・都道府県等地方自治体などの行政単位における対象の健康保持・増進に向けた看護システム構築や政策的展開に関して学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：その時代その社会に適応した看護システムを創造性豊かに開発・確立するための方法と、その過程において看護職が果たす役割の重要性を学習する。</p> <p>目標：1. 政策及び政策過程について理解する。 2. 看護に関する政策の歴史と変遷について理解する。 3. 保健医療システムにおける行財政の基礎的知識を理解する。 4. 看護職者が政策過程に参画する意義を見出す。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	政策に関する基礎知識	講義	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する 事後：配布資料を基に各回の講義内容を復習する	巴山 清水 木村
	2	政策過程に関する基礎知識 －政策と政策過程 －公共政策			
	3	看護に関する主要な政策 －政策の成立背景と今日の課題			
	4	保健医療システムにおける行財政（１） －活動の基盤となる根拠及び理念			
	5	保健医療システムにおける行財政（２） －行財政のしくみと機能 －国と地方財政の仕組み			
	6	保健医療システムにおける行財政（３） －保健事業の企画書作成			
	7	看護職者が政策過程へ参画するための意義と課題			
評価方法	課題レポート（100%）				
教科書	指定なし/講義にて別途資料配布				
参 考 書 参 考 文 献 等	1) 見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門，日本看護協会出版会，2007. 2) 藤内修二他：保健医療福祉行政論，医学書院，2011 3) 星旦二、麻原きよみ：これからの保健医療福祉行政論，日本看護協会 2010 講義中に必要に応じて適宜提示する。				
備 考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	機能看護学各論Ⅲ－２（地域行政政策）		科目履修	可	単位互換 否
科目番号	N14015	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	保健師必修、看護師選択		
開講時期	4年次 前期 Semester		単 位	1単位 15時間	
科目責任者	大澤真奈美	そ の 他			
担当教員	大澤真奈美、鈴木美雪、塩ノ谷朱美、坪井りえ				
授業の概要	保健医療福祉制度およびこれらに関連する諸法規に関する理解及び機能看護学各論Ⅲ－１（看護政策）の授業を前提とし、地域における行政政策的側面から看護の質を保証するための知識・技術に関して学習する。具体的には、都道府県・市町村等地方自治体などの行政単位における対象の健康保持・増進に向けた地域ケアシステム構築や政策的展開に関して学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：その時代その社会に適応した、地域ケアシステムの構築を目指した地域行政政策を、ヘルスプロモーションの観点から創造性豊かに開発・確立するための方法及びその過程において看護職が果たす役割の重要性を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域において保健医療福祉に関わる行政政策を策定するために、その前提として重要なヘルスプロモーションについて理解する。 2. ヘルスプロモーションの観点から自治体の保健事業を計画立案する過程を理解する。 3. ヘルスプロモーションの観点から自治体の行政政策を計画策定する過程を理解する。 4. 看護職者が行政政策の過程に参画する意義を見出す。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	地域におけるヘルスプロモーション活動	講義	課題をまとめ、グループ毎に発表する。	大澤
	2	模擬事例（母子保健事業）による保健事業計画の立案①	演習		大澤 鈴木 塩ノ谷 坪井
	3	模擬事例（母子保健事業）による保健事業計画の立案②（グループ発表・まとめ）			
	4	自治体における生活習慣病対策の立案①			
	5	自治体における生活習慣病対策の立案②			
	6	自治体における生活習慣病対策の立案③（グループ発表・まとめ）			
	7	地域におけるヘルスプロモーション活動と地域行政政策（まとめ）	講義		大澤
評価方法	演習における討議・発表（50%）、課題レポート（50%）				
教科書	指定なし				
参 考 書 参 考 文 献 等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 島内憲夫, 鈴木美奈子著: 21世紀の健康戦略シリーズ ヘルスプロモーション WHO: パンコク憲章, 垣内出版 2) 石井敏弘, 櫃本真幸編: ケースメソッドで学ぶヘルスプロモーションの政策開発—政策化・施策化のセンスと技術, ライフ・サイエンス・センター 				
備 考	演習以外の授業については聴講が可能である。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	機能看護学各論Ⅳ（専門職的機能の発達支援）		科目履修	否	単位互換
科目番号	N14005	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	岩波浩美	そ の 他			
担当教員	岩波浩美、巴山玉連、清水裕子、木村美香、河内直美				
授業の概要	看護職者は専門職であり、効果的な実践を展開するために必要な新たな知識・技術・態度を常に自律的に学習し続ける必要がある。また、そのためには、自己教育力を高めることが重要である。この授業においては、小グループによる発見学習演習を通して、機能看護学領域における様々なテーマの焦点化及び問題解決を試み、自己教育力の向上を図る方法を学習する。また、専門職的自律性と自己教育力の関連、看護職が自己教育力を高める重要性に関して理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：看護専門職者として自己評価活動を展開する意義を学習し、その基盤となる自己教育力の重要性を理解する。 目標：1. 機能看護学に関わる興味・関心を明確にし、問題解決過程を実施する。 2. 実施した問題解決過程とその自己評価を通し、看護職が自己教育力を培う重要性を確認する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	授業の目的・目標及び学習方法の理解 －機能看護学各論Ⅳを学ぶ意義 －学習方法 －機能看護学に関わるテーマの実例	講義	機能看護学に関わる興味・関心、解決したい問題を明確化する	岩波
	2	問題解決に向けた文献検索の方法			岩波
	3	学習グループの形成 －解決したい問題、興味・関心の共通性によるグループ形成 －テーマの焦点化	演習	授業終了毎、レポートに学習成果と次回の課題を記載し、提出する	岩波 他 ※受講者数に応じて決定
	4	グループディスカッション 用語の確認			
	5	自己評価、自己教育力、問題解決過程 問題解決過程の体験			
	6	テーマの決定 －テーマに基づく文献の探索			
	7	文献入手 －文献精読による内容の理解			
	8	文献検討による問題解決状況の確認 －問題解決過程の自己評価 中間報告の準備			
	9	中間報告 －経過報告と報告内容に対する質疑応答			
	10	学習成果の要約と発表準備 ・問題解決状況の確認と再評価 ・問題解決過程を通して得た学習成果の確認 ・発表準備に向けた資料等の作成			
	11				
	12				
	13				
	14	成果発表と質疑応答 －成果発表と発表内容に対する質疑応答			
15					
評価方法	演習中の学習活動と最終レポートにより行動目標の達成状況を評価する(100%)。				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	講義中に必要に応じて適宜提示する。				
備 考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	機能看護学各論Ⅴ (実習)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N14006	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	選択必修		
開講時期	4年次 前期 Semester	単 位	2単位 90時間		
科目責任者	岩波浩美	そ の 他			
担当教員	巴山玉蓮、岩波浩美、清水裕子、木村美香、河内直美				
授業の概要	機能看護学概論・各論で学習した内容を統合し、看護職者の機能を維持・拡大するシステムに対して総合的に学習する。行政・臨床・地域・企業・大学などのフィールドにおいて、その実践の特徴を学習し、看護職者の役割と機能を発展させる方法の必要性を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：機能看護学概論・各論で学習した内容を統合し、看護の機能の発揮に向けて維持・拡大するシステムに対して総合的に学習する。</p> <p>目標<コースA：看護政策管理グループ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療システムの開発・維持・変革における看護職者の役割を理解する。 2. 保健医療システムの開発・維持・変革における看護職者の役割遂行・拡大の重要性を理解する。 3. 目標1, 2の達成に向けてグループという組織の一員として、学習活動を展開する。 4. 看護の機能の発揮に向けて役割を遂行し、システムを開発・維持・変革できる看護職者になるための自己の課題を見出す。 <p>目標<コースB：看護教育グループ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職者が実践する教育的活動を参加観察(参加型)する。 2. 看護職者が教育的機能を発揮する意義を理解する。 3. 教育的機能を発揮できる看護職者になるための自己の課題を見出す。 				
授業の内容と方法	回	コースA	コースB	授業形態	
	1	オリエンテーション・学内演習(1)	オリエンテーション・学内演習(1)	講義・演習	
	2	フィールドにおける実習(1)	フィールドにおける実習(1)	実習	
	3	フィールドにおける実習(2)	フィールドにおける実習(2)	実習	
	4	フィールドにおける実習(3)	フィールドにおける実習(3)	実習	
	5	学内演習(2) 中間評価	学内演習(2) 中間評価	演習	
	6	フィールドにおける実習(4)	フィールドにおける実習(4)	実習	
	7	フィールドにおける実習(5)	フィールドにおける実習(5)	実習	
	8	学内演習(3) グループワーク	学内演習(3)	演習	
	9	成果発表 質疑応答	学内演習(4)	演習	
	10	最終評価 レポート提出	成果発表 討議 レポート提出	演習	
	<p>【期間】 2週間 予定：平成28年6月27日(月)から7月8日(金)</p> <p>【場所】 コースA：病院, 日本看護協会, 群馬県庁など コースB：病院, 大学, 群馬県看護協会など</p> <p>【時間】 実習場所に応じて設定</p> <p>【教員】 グループの数に応じて担当教員を決定</p> <p>【内容・方法】</p> <p>コースA：看護政策管理の実際を参加観察し、グループメンバーと協力しながら、システムを開発・維持・変革できる看護職者になるための自己の課題を見出す。</p> <p>コースB：看護職者が実践する教育的活動を参加観察(参加型)し、教育的機能を発揮できる看護職者となるための自己の課題を見出す。</p> <p>【事前・事後学習】</p> <p>各コースの目標やフィールドの特徴に応じて、学習課題を提示する。</p>				
評価方法	演習および実習中の学習活動(70%)、レポート(30%)により、行動目標の達成状況を評価する。				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	必要に応じて適宜提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	看護関連法規論	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N14007	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	巴山玉蓮	そ の 他			
担当教員	巴山玉蓮、清水裕子、木村美香				
授業の概要	この授業においては、看護職者の役割と機能に関わる様々な法の種類・特徴に関する知識を学習する。また、これら諸法規が実践を取り巻く環境にどのように影響し、看護職者の役割と機能を規制・保護するのかを学習し、法的側面から対象の健康問題の解決・回避を目指す重要性を理解する。さらに、これら一連の過程を通して、国民の健康に関わる保健・医療専門職として国家三権としての司法、行政、立法に関しても独自の見解を明らかにし、影響力を持つ必要性についても学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：看護職者の実践に関連する法規を学習し、職業上の法的責任を学習する。 目標：1. 社会システムを規定する法について理解する。 2. 保健医療システムに関連する法律について理解する。 3. 看護専門職者に必要な法律の基礎知識を理解する。 4. 看護職者としての責務を法的にとらえる重要性を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	社会システムと法 －社会システム －法に関する基本的な考え方	講義	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する。 事後：配布資料を基に各回の講義内容を復習する。	巴山
	2	保健医療システムと法律 －保健医療システム －人間の権利やその擁護を保障する法的背景 －保健医療システムに関連する法律			
	3	看護職に直接関係する法律（1） －保健師助産師看護師法			木村
	4	看護職に直接関係する法律（2） －看護師等の人材確保促進に関する法律			
	5	看護職を取り巻く法律（1） －医療提供者の身分、資格を規定する法律 －看護職者が活動する場に関する法律			清水
	6	看護職を取り巻く法律（2） －看護の対象を保護する法律 看護業務の拡大に関連する法律（1） －新しい法律			
	7	看護業務の拡大に関連する法律（2） －新しい法律 －看護業務の拡大に伴う法的責任			
	8	筆記試験			
評価方法	筆記試験（100％）※試験日時は別途指定する。				
教科書	門脇豊子他：看護法令要覧 平成28年度版，日本看護協会出版会，2016				
参考書 参考文献等	講義中に必要に応じて適宜提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	看護専門職の役割と機能 I		科目履修	可	単位互換
科目番号	N14008	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	清水裕子	そ の 他			
担当教員	清水裕子、岩波浩美、田村文子、大澤真奈美、行田智子、飯田苗恵				
授業の概要	国内外における看護職者の活動及び過去・現在・未来に亘る役割と機能の変化を学習し、その特徴を理解する。この授業においては、様々な場において活動する看護職者に焦点を当て、その役割と機能の共通性、相違性、多様性を学習する。具体的には、人々が生活する地域を対象に看護活動を展開する看護職者である保健師、学校保健に関わる養護教諭、生命の誕生に関わる助産師等の様々な看護職者の役割や活動をはじめ、看護職者の専門性、様々な役割とその活動の実態を学習する。さらに、諸外国で活躍する様々な看護職者の活動を学習し、看護職者の役割と機能について理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：看護職者の様々な活動の実際と、それらの共通性、相違性、多様性を学習することを通し、看護職者の役割と機能の特徴を理解する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去・現在・未来の看護職者の役割と機能の変遷を理解する。 2. 看護職の役割拡大に伴う活動の専門分化とその実際を理解する。 3. 看護師の活動の場と看護の対象、活動の実際と特徴を理解する。 4. 保健師の活動の場と看護の対象、活動の実際と特徴を理解する。 5. 助産師の活動の場と看護の対象、活動の実際を理解する。 6. 健康の保持増進に向けた看護職の教育的活動の実際を理解する。 7. 看護専門職の活動を支える職能団体、学術団体について学習し、看護学の意義を理解する。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	1. 看護職者の役割と機能の変遷 2. 看護職者の役割拡大と専門分化 社会の変化に伴い求められる役割・機能	講義	毎回、学習課題を提示	清水
	2	3. 看護師の役割① 病院に勤務する看護師の活動			岩波
	3	4. 看護師の役割② 健康の保持増進に向けた教育的活動			田村
	4	5. 助産師の役割 多様な場における活動の実際			行田
	5	6. 保健師の役割 行政、学校、企業（事業所）に勤務する 看護職の役割機能と活動の実際			大澤
	6	7. 看護師の役割③ 訪問看護に従事する看護師の活動 医療施設との連携 急速な社会の変化に伴う活動の場の拡大			飯田
	7	8. 看護専門職の活動を支える組織： 職能団体、学術団体、大学の機能 まとめ			清水
評価方法	出席（5％）、レポート（95％）				
教科書	指定しない				
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護協会監修『新版 看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理』日本看護協会 出版会 2006. ・看護史研究会『看護学生のための日本看護史』医学書院 2003. 				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護専門職の役割と機能Ⅱ-1 (総合実習)		科目履修	否	単位互換
科目番号	N14009	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	選択必修		
開講時期	4年次 前期 Semester	単 位	2単位 90時間		
科目責任者	巴山玉蓮	そ の 他			
担当教員	生涯発達看護学教員、地域健康看護学教員				
授業の概要	<p>人種・民族・年齢・性別の異なるあらゆる対象に対し、必要に応じて看護を実践する重要性を理解する。また、そのために看護職者が果たす様々な役割と機能を学習する。</p> <p>関心の高い専門領域を選択し、看護師課程では病院などの実践現場において個人または集団を対象とし、個別性にあわせた看護を展開する。これを通して、生涯発達看護学、地域健康看護学における学習成果を統合し、あらゆる対象に対して看護を実践する意義を理解する。</p> <p>保健師課程では地域などの実践現場において、個人または集団を対象とし、個別性にあわせた看護を展開する。これらを通して、地域健康看護学における学習成果を統合し、あらゆる対象に対して看護を実践する意義を理解する。また、学生個々の学習過程を共有・統合し、各専門領域において看護職者が果たす役割と機能を理解する。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：生涯発達看護学、地域健康看護学における学習を統合し、様々な場において生活する人種・民族・年齢・性別の異なるあらゆる対象に対し、必要に応じて看護を実践する重要性を理解する。この過程を通し、対象が持つ健康上の問題の解決ならびに問題発生の回避に向けて看護職者が果たす様々な役割と機能を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの実習経験に基づき、関心のある専門領域を選択する。 2. 選択した専門領域において、クライアントやその家族、他の看護職者、医療職者と相互行為を展開する。 3. 展開した相互行為を通して、各専門領域に応じた看護を展開するために必要な知識・技術・態度を理解する。 4. 展開した相互行為を通して、各専門領域において看護専門職が果たす役割と機能の特徴を考察する。 5. 実習全体を通して、各専門領域においてより質の高い看護を展開するために必要な学習課題を明確にする。 6. 実習全体を通して、看護学に関して、既習の学習内容を基盤として継続的・自律的に学習を深める意義を確認する。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション・学内演習	演習	事前： ・実習ガイドライン必読 ・実習フィールドごとに必要な課題を提示 事後： ・実習終了後、フィールドごとにレポートを提示	生涯発達看護学・地域健康看護学担当教員
	2	学内演習	演習		
	3～8	各フィールドにおける実習	実習		
	9～10	学内演習	演習		
<p>【期間】 2週間：平成28年6月27日（月）～7月8日（金）</p> <p>【場所】 担当教員が専門に応じて実習場所を決定する。</p> <p>【グループ編成】 1グループ3～6名を原則とし、学生の希望を優先しながら調整する。</p> <p>【方法】 学生は、これまでの学習経験に基づき、関心の高い専門領域（母胎期、乳幼児期・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期の対象にある看護、家庭環境における看護、就労環境における看護など）を自ら選択し、個々の対象や家族、他の看護職者、医療職者と相互行為を展開し、より質の高い看護を展開するために必要な看護職者の役割と機能を学習する。</p>					
評価方法	各担当教員（実習領域）が設定した行動目標の達成状況（100%）				
教科書	指定なし、各担当教員が提示する。				
参考文献等	必要に応じて各担当教員が適宜提示する。				
備考	5月中旬にオリエンテーション、フィールド決定を行う。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護専門職の役割と機能Ⅱ-2(役割移行実習)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N14010	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	自由		
開講時期	4年次 後期セメスター	単 位	2単位	90時間	
科目責任者	岩波浩美	そ の 他			
担当教員	機能看護学教員、地域健康看護学教員				
授業の概要	看護職者として就業を希望する専門領域と類似したフィールドにおいて看護学実習を行う。保健医療チームメンバーとして看護実践に参加し、これまで学習した基礎的知識・技術・態度の獲得状況を自己評価する。また、職業人としての責務を果たすために今後獲得する必要のある専門的知識・技術・態度を考察する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：学習者である看護学生と職業人である看護職者の役割及び機能の相違について学習し、直面した問題を学術的・自律的に解決する重要性を理解する。 目標：1. 看護学生から看護職者への役割移行の特徴を理解する。 2. 選択したフィールドに応じた実習計画を作成する。 3. 保健医療チームメンバーとして看護実践に参加する。 4. 役割移行に伴い直面する問題を学術的・自律的に解決する重要性を認める。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当 受講者数に応じて担当教員を決定
	1	オリエンテーション・学内演習(1)	講義 演習	実習計画の作成・洗練	
	2	実習フィールドにおける看護実践(1)	実習	実習記録の整理 実践の自己評価 実習計画の作成	
	3	実習フィールドにおける看護実践(2)	実習		
	4	学内演習(2)	演習	中間評価 課題の明確化	
	5	実習フィールドにおける看護実践(3)	実習	実習記録の整理 実践の自己評価 実習計画の作成	
	6	実習フィールドにおける看護実践(4)	実習		
	7	実習フィールドにおける看護実践(5)	実習	実習計画の作成	
	8	学内演習	演習	課題達成状況の確認	
9	学内演習 レポート提出	演習	学習成果の自己評価 目標達成状況の確認		
【期間】	2週間(9日間) 予定：平成29年2月27日(月)から3月10日(金)				
【場所】	県立心臓血管センター、県立がんセンター、県立精神医療センター、県立小児医療センター、前橋赤十字病院、伊勢崎市民病院、赤城病院、群馬県内の保健福祉事務所、市町村保健センターなど				
【時間】	実習場所に応じて設定				
【方法】	学生の要望に応じて、実習フィールドおよび具体的内容を決定する。保健医療チームのメンバーとして看護実践に参加することを通し、看護学生から看護職者への役割移行に伴う課題を克服するための方法を修得する。				
評価方法	演習・実習の学習活動(70%)、レポート(30%)により、行動目標の達成状況の評価する。				
教科書	指定なし				
参 考 書 参 考 文 献 等	1. パトリシア・ベナー；井部俊子他訳：ベナー看護論—初心者から達人へ—新訳版，医学書院，2005. 2. 日本看護協会：日本看護協会看護業務基準集—2007年改訂版，日本看護協会出版会，2007. 3. 筒井孝子：看護量の測定および推定のための方法論に関する研究—看護業務分類コードの作成について，看護管理，7(12)，890-900，1997. 4. 森真由美他：新人看護師行動の概念化，看護教育学研究，13(1)，51-64，2004. 5. 塚本友栄他：就職後早期に退職した新人看護師の経験に関する研究—就業を継続できた看護師の経験との比較を通して，看護教育学研究，17(1)，22-35，2008.				
備 考	※11月上旬、オリエンテーションを行い、その後に履修登録期間を設ける。 ※履修登録終了後に実習フィールドを調整し、決定する。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	専門的機能と看護実践	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N14016	クラス番号			
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	4年次 前期semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	中西 陽子	そ の 他			
担当教員	中西陽子、廣瀬規代美、飯田苗恵、狩野太郎、清水裕子、小林万里子、樋口友紀、福島昌子、橋本晴美、鈴木美雪、浅見優子、岡部美保				
授業の概要	この授業は、これまでの看護技術学や生涯発達看護学、地域健康看護学の講義・演習で学習した知識や技術、実習におけるクライアントに対する看護過程の展開、看護実践の経験を前提とする。臨地において、より専門性の高い看護を必要とする人々が、健康上の問題を解決・回避し、その人らしく、質の高い生活を維持・回復できるよう、看護実践に必要な知識や技術および態度を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：これまでの講義・演習や実習において習得した知識や技術を統合し、より高度の専門的な看護を必要とする人々への支援の方法と意義を学習する。 目標：1. 専門性の高い看護を必要とする対象の健康問題の概要と支援の方法を理解する。 2. 個別の健康問題や治療に応じて、既習の知識や技術を活用する方法を学ぶ。 3. 看護実践における知識や技術の統合と継続学習の意義を見いだす。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	クリティカルケアを必要とする対象への看護 「手術室看護師の役割と機能(1)」	講義	各授業時に必要に応じて事前・事後課題を提示する。	橋本
	2	クリティカルケアを必要とする対象への看護 「手術室看護師の役割と機能(2)」	講義		橋本
	3	クリティカルケアを必要とする対象への看護 「救命救急・救急搬送された患者と家族の支援」	講義		中西
	4	クリティカルケアを必要とする対象への看護 「心電図モニタリングと心臓リハビリテーション」	講義		狩野
	5	医療機器や医療補助具を利用して生活する対象への看護 「酸素療法」	講義		飯田／鈴木
	6	医療機器や医療補助具を利用して生活する対象への看護 「人工呼吸器の管理」	講義		飯田／鈴木
	7	免疫機能に問題を抱える対象への看護 「自己免疫性疾患」(関節リウマチ、全身性エリテマトーデス)	講義		狩野
	8	ボディイメージやセクシュアリティの問題を抱える対象への看護 「男性生殖器疾患」(前立腺肥大、前立腺がん)	講義		狩野
	9	日常生活への影響が大きい心身の問題を抱える対象への看護 「発声機能障害」	講義		廣瀬
	10	日常生活への影響が大きい心身の問題を抱える対象への看護 「神経難病」(ALS、進行性筋ジストロフィー)	講義		飯田
	11	免疫機能に問題を抱える対象への看護 「造血器腫瘍」	講義		清水
	12	医療機器や医療補助具を利用して生活する対象への看護 「人工肛門・人工膀胱の管理」	講義		岡部
	13	ボディイメージやセクシュアリティの問題を抱える対象への看護 「女性性に関わる問題に対する支援」(補整下着、脱毛への対処、リハビリメイク)	講義		浅見
	14	医療機器や医療補助具を利用して生活する対象への看護 「経腸経管栄養」	講義		樋口／福島
15	医療機器や医療補助具を利用して生活する対象への看護 「透析治療」	講義	中西		
評価方法	各講義中の小テスト・レポートにより総合的に評価する。 各講義 10点×15コマ=150点満点にて採点し、100点換算する。				
教科書	これまでの講義・演習・実習で購入した教科書				
参考書 参考文献等	特に指定なし				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可	
授業科目名	看護学研究概論	科目履修	可	単位互換	否	
科目番号	N14011	クラス番号	N1			
授業形式	講義	必修選択区分	必修			
開講時期	3年次 前期 Semester	単位	1単位 15時間			
科目責任者	岩波浩美	その他				
担当教員	岩波浩美					
授業の概要	学術研究の領域と方法論、看護学に関する研究にはどのようなものがあるか、その特徴を学習する。研究成果の活用に有効な論文を選択するためには、論文全体を読解することが不可欠である。この授業においては、看護学研究の理解、研究論文の読解、研究成果活用に必要な基礎的知識を学習する。					
学科目的 学科目標	<p>目的：看護学研究の意義と特徴、研究の過程と構造を学習し、研究成果を実践に活用するための基礎的知識を学習する。</p> <p>目標：1. 看護学研究に用いられる基本的な用語を理解する。 2. 研究の過程を理解し、研究論文を読解するための基礎知識を習得する。 3. 看護学研究の成果を実践に活用するための課題を考察する。 4. 学術的・自律的な問題解決に向けて研究成果を活用する意義を認める。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	I. 看護学研究の意義と特徴 －研究とは何か －看護学研究の定義	講義	『看護における研究』第1章を精読する	岩波	
	2	II. 研究成果活用の意義と実際 －看護実践と研究成果 －研究成果活用の過程 －研究成果活用による看護実践上の問題解決		『看護における研究』第10章を精読する		
	3	III. 研究過程と研究論文の構成要素 －研究過程 －研究論文の構成要素 －研究批評		自己の興味や関心に従い、看護実践上の問題を記述する		
	4	III. 看護学研究のデザイン(1) －質的研究		『看護における研究』第5章を精読する		
	5	IV. 看護学研究のデザイン(2) －量的研究		資料「ニューロンパルク綱領」を精読する		
	6	V. 研究と倫理 －研究における倫理 －看護学研究における研究対象者の権利擁護		『看護における研究』第3章を精読する		
	7	VI. 研究成果活用のための文献検索 －研究成果を入手する方法 －文献検索の意義と目的		自己の興味や関心に従い、文献を入手する		
		<p>【レポート課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護実践上の問題や課題について、看護学研究の論文を検索して入手し、精読する。 ・授業を通して学習した知識を活用し、精読した文献の内容を所定の様式に要約する。 ・看護学研究の成果を看護実践に活用する意義を述べる。 				
評価方法	レポート(100%)					
教科書	南裕子編：看護における研究，日本看護協会出版会，2008.					
参考書 参考文献等	山崎茂明他：看護研究のための文献検索ガイド 第4版増補版，日本看護協会出版会，2010.					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護学研究Ⅰ（問題解決過程）		科目履修	否	単位互換
科目番号	N14012	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	4年次 前期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	廣瀬規代美	そ の 他			
担当教員	廣瀬規代美、宮崎有紀子、高井ゆかり、飯田苗恵、岩波浩美、清水裕子、松嶋弥生、龍野浩寿、田淵祥恵、服部美香、木村美香、河内直美、富永明子、樋口友紀、浅見優子				
授業の概要	この授業においては、小グループ制の授業を展開し、看護実践上の問題解決に向けて看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を学習する。学生は、看護学の学習を通して日々感じている問題を明らかにする。また、学習グループを形成し、焦点化したテーマ（問題）に関連する文献検索を通して学術的に解決する過程を体験する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>学科目的:看護実践上の問題解決に向けて看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を学習する。</p> <p>学科目標: 1. 問題解決に向けて、看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を理解する。</p> <p>2. 看護学の学習を通して感じている問題からグループテーマを焦点化し、看護学研究の成果を活用した問題解決過程を実施する。</p> <p>3. グループ討議・成果発表において主体的に学習活動を展開する。</p> <p>4. 看護学研究の成果を活用した問題解決過程の価値を認める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	ガイダンス：授業の目的・目標及び学習方法 ①授業科目の位置づけと目的・目標 ②看護学研究の成果を活用した問題解決過程の概要 ③関心領域、解決したい問題によるグループ形成	講義 演習	<事前学習> ・「看護学の学習を通して感じている問題」を明確化する。 (指定期日に提出する。)	廣瀬
	2	文献検索の意義と方法 ①用語の定義 ②文献検索方法の種類と研究成果活用の過程 ③文献精読と文献カードへの整理	講義	・「看護学研究概論」の学習内容を復習する。	廣瀬
	3	問題解決過程の体験（グループワーク） ①グループにおける問題の共通性による問題解決に向けたテーマの焦点化・成文化（グループ討議） ②問題解決に向けた文献検索の実際と文献入手 ③文献精読による内容の理解、文献整理 ④問題解決に向けた文献の選択 ⑤選択した看護学研究の共通点・相違点の明確化 ⑥学習成果発表に向けた内容の整理	演習	<事前学習> ・演習と並行し、グループ討議に向け、各自文献を精読する。 ・各自精読した文献の内容を、文献カードに整理する。	廣瀬 宮崎 高井 飯田 岩波 清水 松嶋 龍野 田淵 服部 木村 河内 富永 樋口 浅見
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12	学習成果発表の準備（グループワーク） ①学習成果の整理と発表用資料の作成と提出 ②発表に向けた役割の確認と調整		<事後学習> ・演習終了後、レポート課題「看護学研究Ⅰを通して学んだこと」をまとめる。 (指定期日に提出する。)	
	13	学習成果発表（グループワーク）及びまとめ ①研究成果を活用した問題解決過程の発表と理解 ②発表内容に関する質疑応答			
	14				
15					
評価方法	行動目標の達成状況90%、出席状況10%により総合的に評価する。				
教科書	指定なし/講義にて別途資料を配布する。				
参考文献等	南裕子編:看護における研究, 日本看護協会出版会, 2009 山崎茂明他:看護研究のための文献検索ガイド 第4版, 2010 講義中に必要に応じて適宜提示する。				
備考	本科目は、4月集中科目である。日程は別途提示する。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護学研究Ⅱ (EBP)		科目履修	否	単位互換
科目番号	N14013	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	必修		
開講時期	4年次 通年	単 位	4単位 180時間		
科目責任者	中西陽子	そ の 他			
担当教員	専門基礎 (松田)・看護技術学・機能看護学・生涯発達看護学・地域健康看護学全教員				
授業の概要	<p>看護において研究成果を活用する意義を学習し、看護実践に必要な研究成果を探索・発見し、実践に活用する方法を学習する。関心の高い専門領域を選択し、対象の持つ問題を解決するために研究成果を活用した実践を立案し、看護師課程では病院などの実践現場において、その実践の展開を試みる。また、これら一連の過程を論文としてまとめる。</p> <p>保健師課程では地域などの実践現場において、その実践の展開を試みる。また、これら一連の過程を論文としてまとめる。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：看護において研究成果を活用する意義を学習し、看護実践に必要な研究成果を探索・発見し、実践に活用する方法を学習する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践を展開するうえで、研究成果の活用（研究的な過程を含む）を通して解決したい問題を明確化し、テーマを決定する。 2. 文献検討を実施し、問題解決に有効な研究成果や看護理論等を探索する。 3. 探索した研究成果を活用し、問題解決に向けた研究成果活用計画書を作成する。 4. 研究成果活用計画書に沿って、データ収集・分析を実施する。 5. 結果を論述し、考察する。 6. 実施した一連の過程を研究論文の形式に則って論述する。 7. 実施した一連の過程を研究発表の形式に則って発表する。 8. 研究成果の活用（研究的な過程を含む）を通して、看護実践上の問題を解決することに意義を見いだす。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション	講義	課題の探求 行動目標の理解	科目 責任者
	2	「研究成果活用計画書の作成」について	講義 領域毎	文献検討 計画書の作成	学生の 関心に 基づき 担当教 員と相 談の上 決定
	3	「倫理的配慮」について	講義 領域毎	必要時、倫理委員 会の審査を受け る	
	4-6	研究成果活用計画書の作成	演習		
	7-16	研究成果を活用した看護実践 *90時間、2週間程度の実習を含む	実習	看護実践の準備 倫理審査チェッ クリストの確認	
	17-20	データ分析、考察	演習	計画書に沿った 分析、考察	
	21-25	論文作成	演習	規定との照合	
	26-27	抄録、発表原稿の作成	演習	規定との照合 効果的な発表	
	28-29	学習成果発表会における発表と質疑応答	演習 領域毎	他の分野の発表 会への参加	
30	「研究成果を活用する意義」について	演習	行動目標確認 自己評価		
評価方法	行動目標の達成状況 100% (各領域別の行動目標による評価表)				
教科書	指定しない				
参考書 参考文献等	「看護学研究概論」「看護学研究Ⅰ」配布資料 ・南裕子編：看護における研究 日本看護協会出版会 等				
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・別途、EBP 実施要項を配布します。主体的な学習が必要不可欠です。 ・履修の先行要件は、原則として、必修の専門基礎科目及び専門科目の単位を修得あるいは修得見込みであること 				